



オムロン無停電電源装置（UPS）専用ソフトウェア

# PowerAct Pro Master Agent

Windows 11 編

インストールガイド



**OMRON**

# ご使用上の注意

## 本ソフトウェアの用途について

本ソフトウェアは、OA 機器に使用することを目的に設計・製造されています。以下のような、極めて高い信頼性や安全性が要求される機器、用途には使用しないでください。

- ・ 人命に直接かかわる医療機器。
- ・ 人身の損傷に至る可能性のある用途。(航空機、船舶、鉄道、エレベータなどの運行、運転、制御などに直接関連する用途)
- ・ 車載、船舶など常に振動が加わる可能性がある用途。
- ・ 故障すると社会的、公共的に重大な損害や影響を与える可能性のある用途。(主要な電子計算機システム、幹線通信機器、公共の交通システムなど)
- ・ これらに準ずる機器、用途。

## ソフトウェア使用許諾契約書について

このソフトウェアのダウンロード、インストール又は使用に際しては、次のソフトウェア使用許諾契約書（以下本契約）の内容が適用されることに同意いただく必要があります。ご同意いただけない場合には、このソフトウェアをダウンロードし、コンピュータにインストールし又は使用しないでください。

### [ソフトウェア使用許諾契約書]

このソフトウェア使用許諾契約書（以下「本契約」）は、オムロン ソーシアルソリューションズ株式会社（以下オムロン）がお客様に許諾ソフトウェア（第 1 項の定義による）を使用許諾する条件を定めたものです。

許諾ソフトウェアのダウンロード、インストール又は使用に際しては、本契約の内容が適用されることに同意いただく必要があります。

1. 本契約において、次の各号に掲げる用語の意味は、当該各号に定めるところによります。

- (1) 「エンドユーザー」とは、オムロン UPS 及び許諾ソフトウェアが組み込まれたお客様製品を自己のもとで使用する最終使用者をいいます。
- (2) 「お客様製品」とは、お客様が製造及び販売する機器又はシステムソフトウェアをいいます。
- (3) 「オムロン UPS」とは、お客様又はエンドユーザーがオムロンから直接又は販売店その他の第三者を通して購入したオムロンの無停電電源装置（UPS）をいいます。
- (4) 「許諾コンピュータ」とは、1 台又は複数のコンピュータであって、お客様又はエンドユーザーが所有し、かつ、1 台のオムロン UPS から電源供給を受けているものをいいます。
- (5) 「許諾ソフトウェア」とは、コンピュータ・プログラム「PowerAct Pro」及びそれに関連する一切のドキュメントで当該プログラムとともに配付されるものをいいます。

2. オムロンは、お客様に対し、本契約に基づき許諾ソフトウェアに関し次に掲げる非独占的権利を許諾します。

- (1) オムロン UPS を監視及び管理する目的に限り、一つ又は複数の許諾ソフトウェアの複製物を作成し、許諾コンピュータにおいて当該複製物を使用する権利。
- (2) オムロン UPS を監視及び管理する目的に限り、一つ又は複数の許諾ソフトウェアの複製物をオブジェクトコードの形式で作成し、オムロン UPS 及び許諾ソフトウェアを組み込んだお客様製品の一部として直接又は販売店その他の第三者を通してエンドユーザーに対しこれを頒布する権利。

- (3)前号による頒布の目的に限り、ハードディスクドライブのクローニング（複製）のためのマスター・ハードディスクドライブ（ハードディスクドライブ・イメージを含む）の一部としてオブジェクトコード形式で許諾ソフトウェアの複製物を作成する権利。
- (4)バックアップの目的に限り、一つの許諾ソフトウェアの複製物を作成する権利。
3. 許諾ソフトウェアは、前項により使用許諾されるものであり、許諾ソフトウェアに関する著作権その他の知的財産権が本契約に基づきお客様に移転することはありません。お客様は、前項に基づき明示的に許諾されたものを除き、許諾ソフトウェアに関する次に掲げる行為を行うことはできません。
- (1)複製又は改変
  - (2)第三者への再使用許諾、譲渡又は貸与
  - (3)逆コンパイル、逆アセンブリ、リバースエンジニアリングその他これらに類する行為
  - (4)外国為替及び外国貿易管理法その他お客様に適用される輸出管理規制に違反する行為
4. お客様は、許諾ソフトウェアに含まれる情報を機密として取扱い、第三者へ開示しないものとします。
5. お客様が許諾ソフトウェアのライセンスを購入した日又はお客様が許諾ソフトウェアをインストールした日のいずれか早く到来する日から 90 日以内に許諾ソフトウェアの作動のマニュアルへの重大な不一致があることを発見してオムロンにその旨を通知した場合、オムロンは、当該不一致が当該期間内にお客様から書面で報告され、かつ、再現可能であるときに限り、オムロンの費用負担で当該許諾ソフトウェアを交換し又は当該不一致を修正いたします。当該交換又は修正によって当該不一致のすべてが除去されるものではありません。オムロンは、オムロンの選択により、当該交換又は修正に代えてお客様が許諾ソフトウェアを購入するために支払った費用を返金することができます。この場合、この契約は終了します。上記にかかわらず、当該不一致がお客様又は第三者によるオムロン UPS 若しくは許諾ソフトウェア又はコンピュータの不適切な使用又は取扱いにより生じた場合、取扱説明書の指示に従わなかったことにより生じた場合又は使用されることが意図されていない設備機器とともに使用された場合については、上記の許諾ソフトウェアの交換又は修正の対象外となります。さらに、この項の最初の段落にかかわらず、ユーザーがオムロン UPS に同梱の記録媒体又はオムロンのウェブページからのダウンロードにより許諾ソフトウェアを無償で入手した場合、許諾ソフトウェアは、現状有姿で提供され、この項は適用されません。
6. 前項は、オムロンの許諾ソフトウェアの作動及び不動作に関する責任のすべてを定めるものであり、オムロンは許諾ソフトウェアの作動及び不動作により発生した、お客様の直接的、間接的、あるいは波及効果による損害、特別な事情による損害、逸失利益についての損害に対しては一切の責任を負いません。
7. オムロンは、お客様が許諾ソフトウェアを他社のソフトウェアと連携させて使用した場合の許諾ソフトウェアの目的適合性、動作性、第三者の知的財産権の非侵害及び合法性については、一切の保証をいたしかねます。お客様ご自身にてご確認いただき、許諾ソフトウェアのご利用の可否をご判断ください。
8. 許諾ソフトウェアの改変並びに逆コンパイル、逆アセンブリ及びリバースエンジニアリングその他のそれに類する行為により、特許権（実用新案権に基づく権利も含む。以下同じ）、著作権又は営業秘密を侵害するものとしてオムロンに使用を許諾している第三者又は当該第三者以外からお客様が請求された場合にはオムロンは責任を負いません。
9. オムロンがお客様の損害について責任を負ういかなる場合においても、オムロンの責任はお客様が許諾ソフトウェアに

より監視及び管理している無停電電源装置（UPS）の購入代金として支払った金額又は許諾ソフトウェアのライセンスの購入代金として支払った金額のいずれか低い方の金額を超えることはありません。

10.お客様が本契約に違反した場合、オムロンはお客様に通知することにより許諾ソフトウェアの使用許諾を終了させることができます。

その場合、お客様は許諾ソフトウェア及びそのすべての複製物をオムロンに返却し又は削除しなければなりません。

11.本契約は、日本国法に基づき解釈されるものとします。

12.お客様が日本に居住する個人又は日本法に基づき設立された法人の場合には、本契約に関する一切の紛争については、東京地方裁判所をもって第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

その他の場合には、本契約に関する一切の紛争については、一般社団法人日本商事仲裁協会の商事仲裁規則にしたがって、東京において仲裁により最終的に解決されるものとします。

仲裁人の裁定は、最終的かつ本契約の当事者を拘束するものとします。

## 運用に関するおことわり

1. 本ソフトウェアおよび本書の内容の全部または一部を無断で流用することは固くお断りいたします。
2. 本ソフトウェアおよび本書の内容については将来、予告なしに変更する場合があります。
3. 本ソフトウェアおよび本書の内容については万全を期しておりますが、万一誤りやお気づきの点がございましたら、当社までご連絡くださるようお願いいたします。
4. 本書に記載した画面などは、実際のものとは一部異なる場合があります。
  - 「PowerAct Pro」はオムロン株式会社の登録商標です。
  - Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
  - その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

# 本書の読み方


## 本書の構成

本書は以下の内容で構成しています。

はじめに	本ソフトウェアの特徴と、全体のシステム構成について記述
インストール	本ソフトウェアのインストールの前提条件と、IIS を使用する、Web サーバを使用しない、2 種類のインストール方法について記述
シャットダウン動作の確認	シャットダウン時の動作設定やシャットダウンテストの実行方法について記述
こんなときには	トラブルシューティング
付録	動作シーケンスについて記述

## 本書で使用する表記

本書では、以下の表記を使用しています。

表記	意味
<b>注意</b>	守っていただきたい事項、操作上の注意を要する事項を記載しています。 記載をよくお読みになり、必ず指示に従ってください。
<b>参考</b>	役立つ情報やヒントとなる情報を記載しています。
	関連する情報や操作方法を記載しています。
本ソフトウェア	「PowerAct Pro Master Agent」を指します。
マスタ	「PowerAct Pro Master Agent」を指します。
当社ホームページ	以下の URL をご参照ください。 <a href="https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/ups/index.html">https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/ups/index.html</a>
[ ]	画面に表示される項目で、操作対象のもの（クリックできるボタン類）は [ ] で記載しています。
[ ]	上記以外の画面に表示される項目や、リンク先については「 」で記載しています。

# 目次

ご使用上の注意.....	i
本書の読み方.....	v
本書で使用する表記.....	v
目次.....	vi
1 はじめに.....	1
1-1 特徴と機能.....	1
1-2 機器の接続と運用.....	2
1-2-1 コンピュータを1台接続する場合.....	2
1-2-2 コンピュータを2台以上接続する場合.....	2
1-2-3 仮想化 OS の構成例.....	4
1-3 インストールの種類.....	5
1-4 インストールの手順と動作確認.....	6
2 インストールの準備.....	7
2-1 インストールの前に.....	7
2-2 動作環境.....	7
3 インストール方法－IIS を選択－.....	8
3-1 IIS の有効化と設定.....	8
3-2 本ソフトウェアのインストール.....	12
3-3 ポップアップブロックの設定.....	21
3-4 サーバ証明書のインストール.....	23
4 インストール方法－Web サーバ不使用－.....	29
4-1 本ソフトウェアのインストール.....	29
5 シャットダウン動作の確認.....	37
5-1 シャットダウンパラメータ設定－Web サーバ使用－.....	37
■基本設定（必ず使う設定）.....	39
■応用設定（環境により使う設定）.....	40
5-2 シャットダウンパラメータ設定－Web サーバ不使用－.....	41
■基本設定（必ず使う設定）.....	43
■応用設定（環境により使う設定）.....	44
5-3 シャットダウンテスト.....	46
6 アンインストール（削除）.....	48
6-1 本ソフトウェアのアンインストール.....	48
7 こんなときには.....	51
7-1 「HTTP ポートをチェック」の警告が出たら.....	51
7-1-1 本ソフトウェアのインストール途中でポート番号を変更する.....	51
7-1-2 インストール完了後に HTTP ポート番号を変更する.....	53
7-2 UPS と通信ができない.....	58
7-2-1 USB 接続の場合.....	59
7-2-2 Web サーバ使用環境.....	60
7-2-3 Web サーバ不使用環境.....	63
■通信ポートを「自動」で設定する.....	63

■ 通信ポートを「手動」で設定する .....	67
7-2-4 「通信ポートの設定」で「手動」を選択する場合 .....	72
7-3 復電時にサーバを自動起動させる .....	74
7-3-1 UPS とコンピュータの自動起動設定 .....	74
7-3-2 UPS 停止前に復電した場合にコンピュータが自動起動しない .....	76
■ Web サーバ使用環境 .....	76
■ Web サーバ不使用環境 .....	78
付 録 .....	81
付-1 シャットダウン動作シーケンス .....	81
付-1-1 初期設定値の動作シーケンス .....	81
付-1-2 応用設定した場合の動作シーケンス .....	82
付-1-3 UPS の出力停止前に復電した場合 .....	83



# 1 はじめに

## 1-1 特徴と機能

自動シャットダウンソフト PowerAct Pro Master Agent（以下、本ソフトウェア）は、冗長電源や出力コンセント制御などの機能を搭載した電源管理ソリューションです。

本ソフトウェアには以下の機能があります。

スケジュール運転	UPS の停止、起動や自己診断テストを行うことができます。
連携シャットダウン	ネットワーク上の複数のサーバやクライアントを連携してシャットダウンさせることができます。
出力コンセント制御	出力コンセント制御機能を搭載した UPS と本ソフトウェアを組み合わせることにより、コンセントグループ毎に出力停止／開始時間を制御することができます。
GUI	グラフィカルな画面で各種設定をすることができます。
仮想化サーバ対応	Hyper-V に対応し、複数のゲスト OS をシャットダウンすることができます。ゲスト OS へのインストールは不要です。
スクリプトシャットダウン	ソフトウェアをインストールできないアプライアンスサーバなども、スクリプトを使ってシャットダウンできます。
ping 監視・モバイル端末監視	Ping 応答による接続機器の死活監視やネットワーク上の端末の稼働状況監視、モバイル端末からのコンセント制御（リポート）ができます。
SNMPv3 対応	SNMPv3 に対応し、セキュアな環境でネットワーク上の電源管理ができます。
CO2 監視機能	接続機器の消費電力から、CO2 排出量を手軽に測定できます。スケジュール運転機能と併用すれば、夜間・休日は、機器の稼働を停止させることで CO2 や電気料金の削減ができます。

### 参考

#### 自動シャットダウンソフトとは

自動シャットダウンソフトは無停電電源装置（以下、UPS）に併用するソフトウェアで、一定時間内にシステムを正常終了させ、ハードディスクやシステムファイルの破損等を防ぎます。

サーバーやコンピュータ等のシステムを UPS に接続される場合は、自動シャットダウンソフトのセット使用を推奨します。

## 1-2 機器の接続と運用

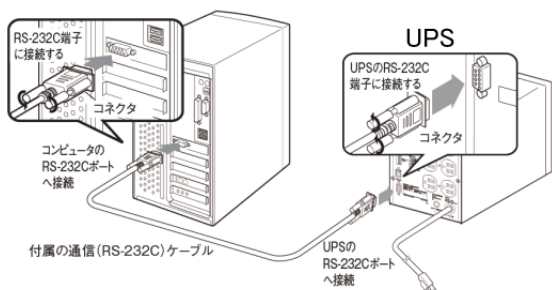
PowerAct Pro はマスタとスレーブ、2つのソフトウェアで構成されます。

<p><u>マスタ</u> (Master Agent)</p>	<p>UPS を管理するソフトウェアで、USB 又は RS232C ケーブル経由で常時 UPS を監視します。停電時のシャットダウンやスケジュール運転、出力コンセント制御機能等を持っています。</p> <p>UPS 1台につき、マスタは1台です。</p>
<p><u>スレーブ</u> (Slave Agent)</p>	<p>マスタの命令に従い OS をシャットダウンするソフトウェア。</p> <p>マスタとはネットワーク通信で連携します。</p>

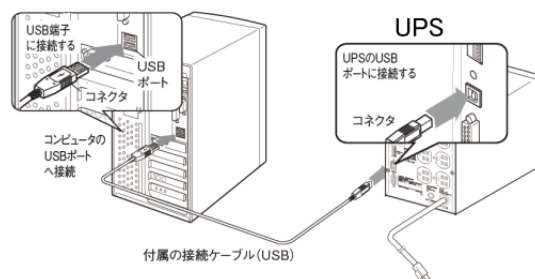
### 1-2-1 コンピュータを1台接続する場合

UPS 付属の通信ケーブルでコンピュータと UPS を接続し、本ソフトウェアをインストールします。

#### < RS-232C 接続 >



#### < USB 接続 >



### 1-2-2 コンピュータを2台以上接続する場合

#### ■ サーバ（または、一番長く稼働しているコンピュータ）

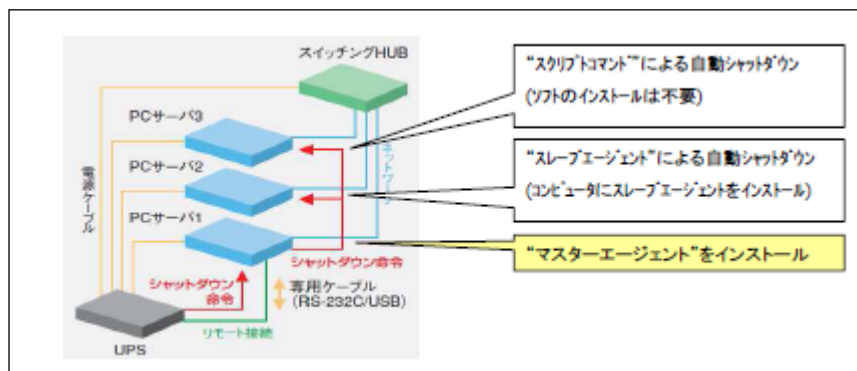
UPS 付属の通信ケーブルでコンピュータと UPS を接続し、本ソフトウェアをインストールします。

#### ■ コンピュータ（UPS と直接通信しないコンピュータ）

以下のどちらかの方法で、マスタに連携して OS をシャットダウンします。

- ① スレーブをインストールする（スレーブ対応 OS）
- ② 本ソフトウェアからスクリプトコマンドを発行する（スレーブ非対応 OS 等）

#### UPS に複数のコンピュータを接続する場合



**参考**

- ・スレーブのインストール方法については別紙のインストールガイドをご確認ください。
- ・コンピュータと UPS の接続には RS232C または USB のどちらか一方のみを使用してください。
- ・各コンピュータは同一セグメント上のネットワークに接続してください。

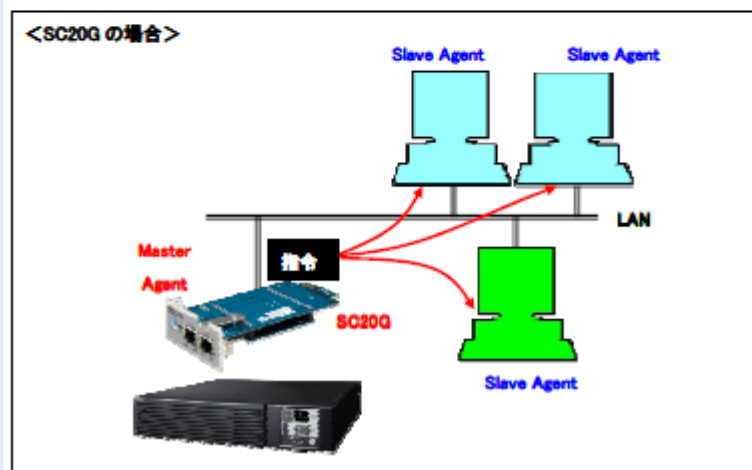
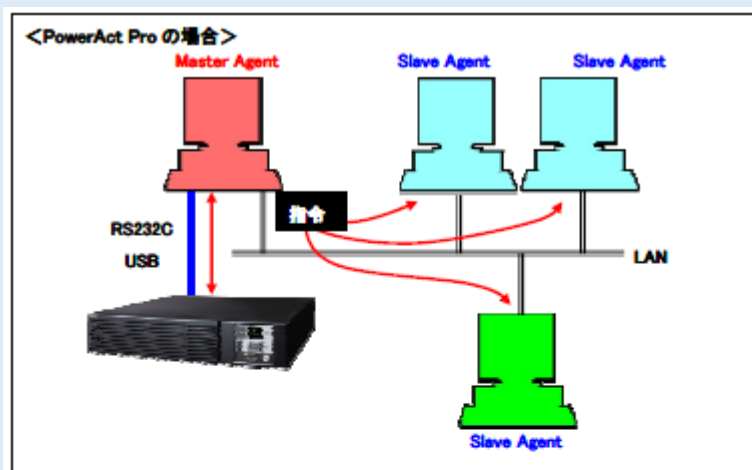
(例)

## ■ マスタ

- ・UPS と RS232C (または USB) で直接接続されたサーバ、コンピュータにインストールする
- ・UPS の監視/制御、LAN で接続されたサーバ、コンピュータの停止/起動も一元的に管理する
- ・UPS に実装して使用される「SC20G/SC20G2/SC21」も UPS を直接制御するため、マスタとして機能する

## ■ スレーブ

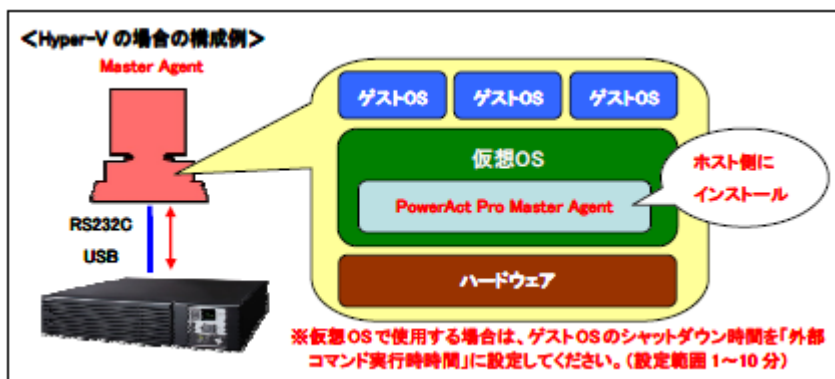
マスタからの命令に従い、コンピュータをシャットダウンする



### 1-2-3 仮想化 OS の構成例

Windows Server の Hyper-V 機能による仮想環境で使用する場合は、ホスト側に本ソフトウェアをインストールします。

- マスタ/スレーブともにインストール可能です
- マスタをインストールする場合は、RS232C または USB で接続してください
- スレーブをインストールする場合は、同一セグメントのネットワーク内にマスタが必要です



#### 参考

ゲスト OS の終了処理は、ホストにインストールした本ソフトウェア又はシステム側で行いますので、ゲスト OS にインストールする必要はありません。

## 1-3 インストールの種類

本ソフトウェアはブラウザを使用してモニタ画面を表示し、各種設定、UPS の管理を行います。

モニタ画面を表示するために、Web サーバを併用します。Web サーバは、WindowsOS 標準サービスの IIS (Internet Information Services) を使用します。

なお、ブラウザを使わずにコンソールから制御する方法もあります。

ご利用の環境に合わせて、インストール方法を選択してください。

IIS を使用する場合	P.8 参照
Web サーバを使用しない場合	P.29 参照

### 参考

Web サーバを使用しない場合、GUI では簡単なシャットダウン項目のみの設定になります。

☞ P.41 「5-2 シャットダウンパラメータ設定 - Web サーバ不使用 -」

簡単なシャットダウン項目以外はコンソールを使用して設定します。コンソールの設定方法については、別冊の『コンソール設定ガイド』をご確認ください。

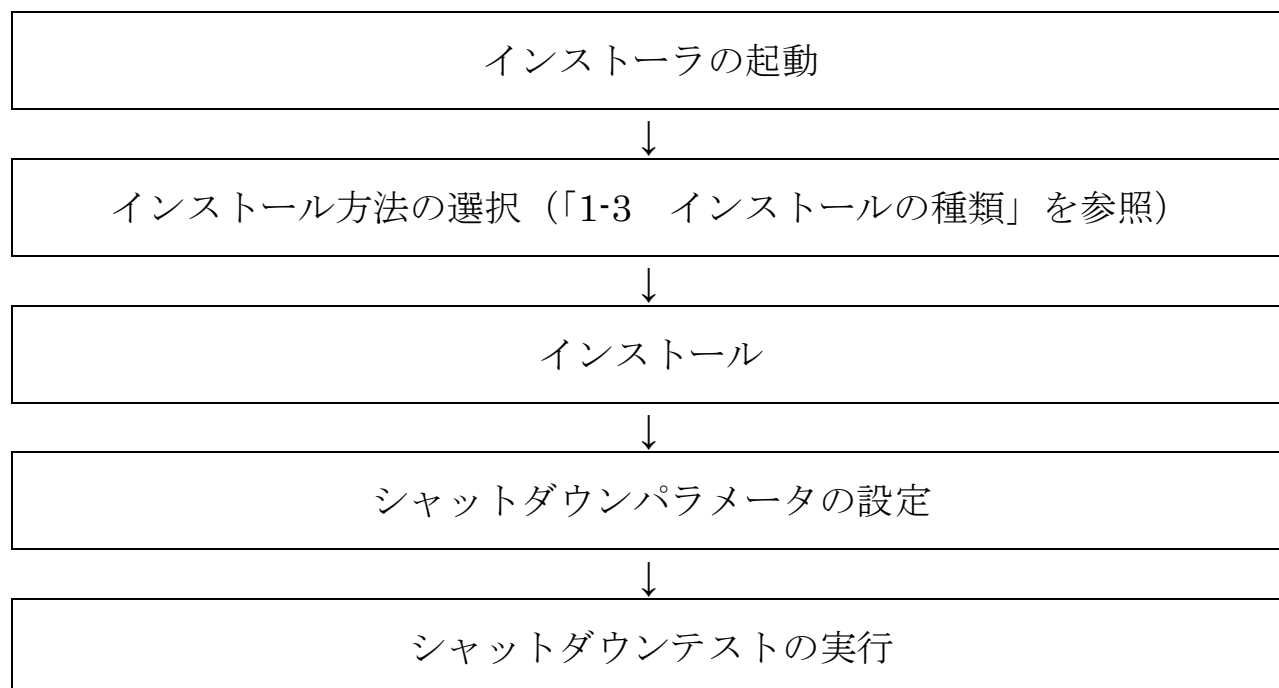
### <モニタ画面>



## 1-4 インストールの手順と動作確認

---

以下の手順で本ソフトウェアのインストールと動作の確認をします。



## 2 インストールの準備

### 2-1 インストールの前に

---

インストールを開始する前に、以下の事項をご確認ください。

- Administrator 権限があるユーザ名で OS にログインしてください。
- ご使用環境で OS が正常に終了できることを確認してください。
- 他の自動シャットダウンソフトを使用している場合は、必ずそのソフトウェアをアンインストールし、OS を再起動してください。各ソフトウェアのアンインストール方法は、それぞれの取扱説明書をご確認ください。
- UPS 付属の通信ケーブルでコンピュータと UPS と接続してください。

#### 注意

本ソフトウェアは、オムロン製 UPS およびオムロン製 OEM 供給品の UPS 以外では使用できません。

### 2-2 動作環境

---

最新の動作環境については当社ホームページをご参照ください。

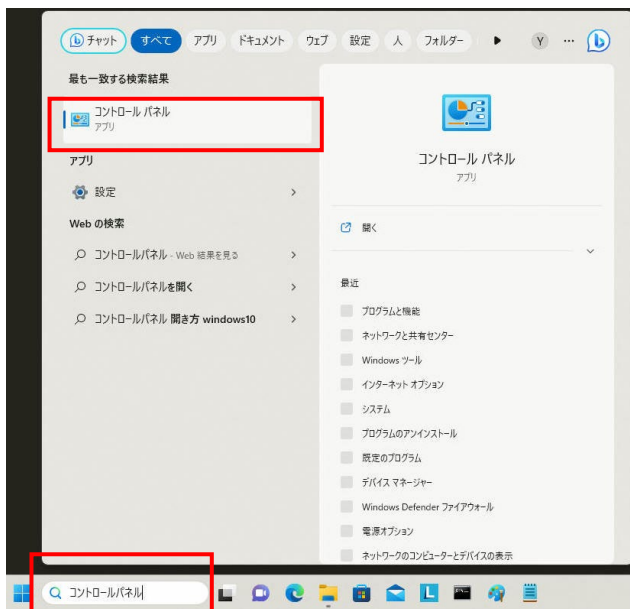
[https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products\\_service/ups/index.html](https://socialsolution.omron.com/jp/ja/products_service/ups/index.html)

## 3 インストール方法 – IIS を選択 –

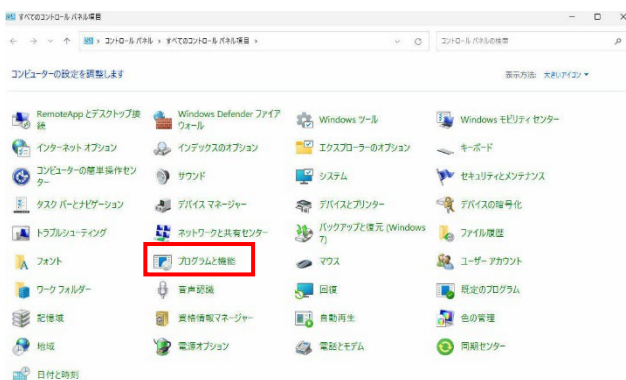
### 3-1 IIS の有効化と設定

OS 標準の Web サーバ、IIS を有効化します。

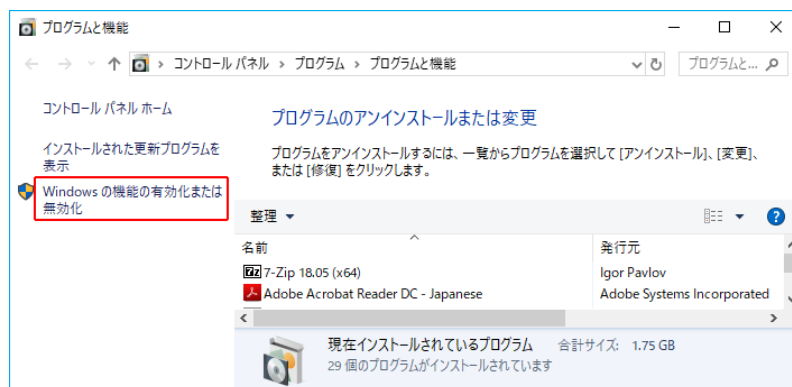
#### 1 「コントロールパネル」を検索して表示させる



#### 2 「プログラムと機能」をクリックする

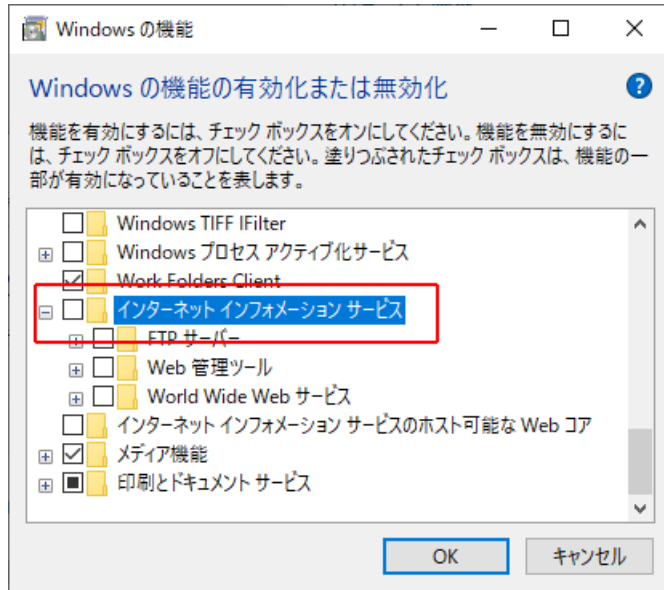


#### 3 「Windows の機能の有効化または無効化」をクリックする

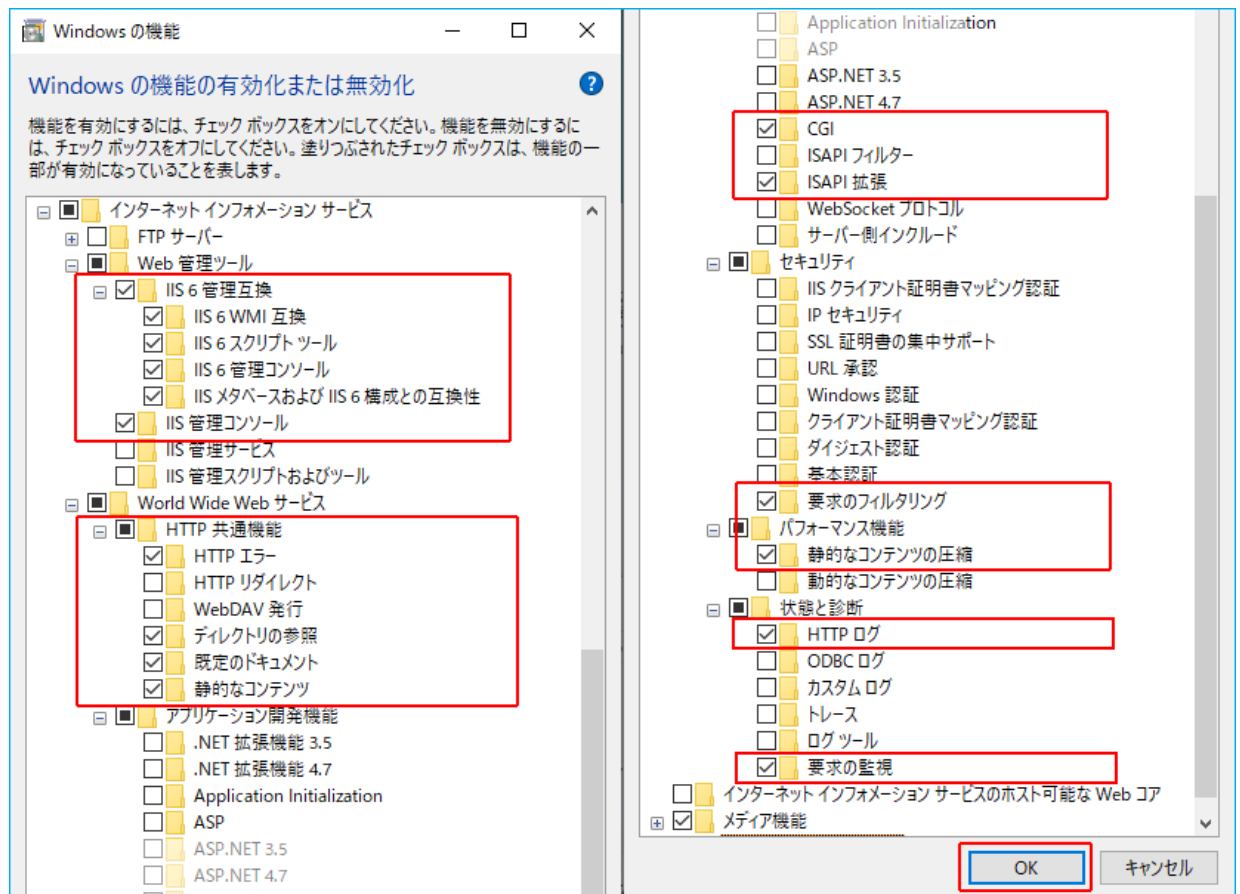




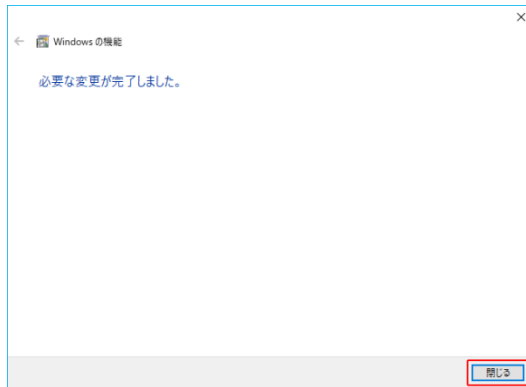
## 4 「インターネットインフォメーションサービス」の「+」ボタンをクリックして展開する



## 5 以下図を参照し同じ箇所にチェックを入れ [OK] ボタンをクリックする

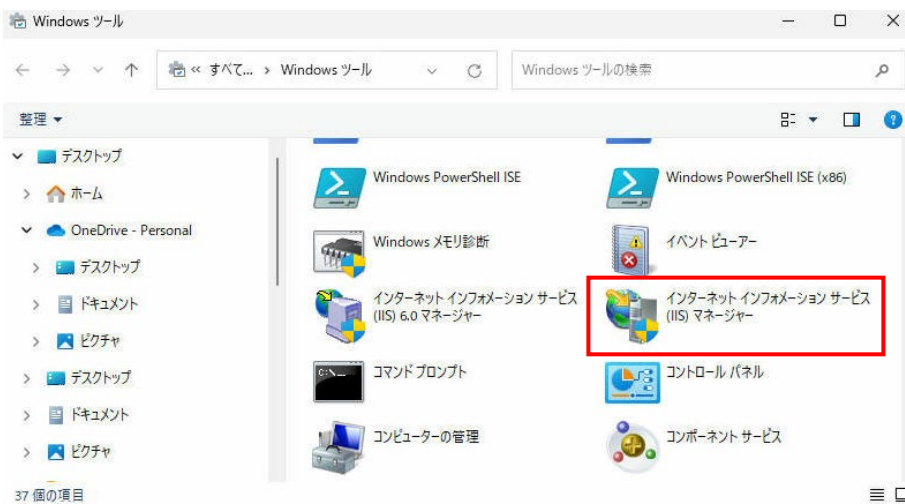


## 6 「閉じる」 ボタンをクリックする

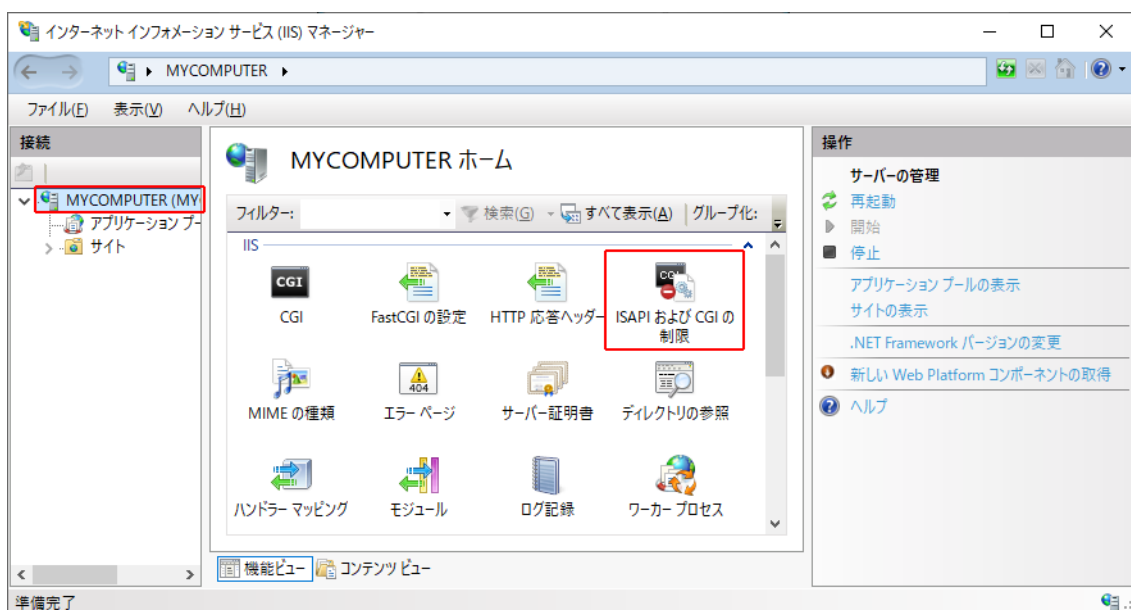


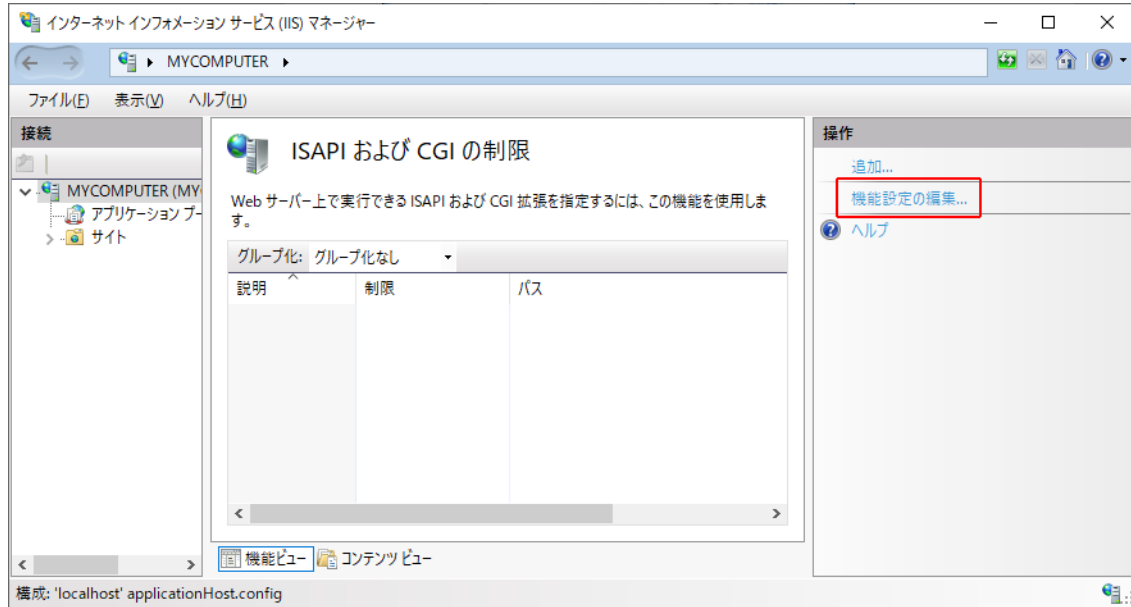
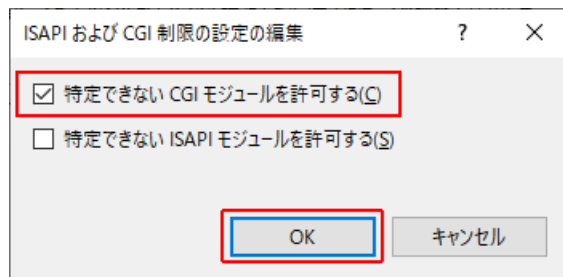
## 7 「プログラムと機能」、「アプリと機能」画面を閉じる

## 8 「スタート」 → 「Windows ツール」 → 「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー」 をクリックする



## 9 「接続」メニューでコンピュータ名を選択し「ホーム」画面で「ISAPI および CGI の制限」をダブルクリックする



**10** 「操作」メニューの「機能設定の編集」をクリックする**11** 「特定できない CGI モジュールを許可する(C)」にチェックを入れ、[OK] ボタンをクリックする**12** 「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャー」画面を閉じる

以上で IIS の有効化と設定は終了です。

P.12 「3-2 本ソフトウェアのインストール」に進んでください。

## 3-2 本ソフトウェアのインストール

Web サーバに IIS を使用した、本ソフトウェアのインストール手順を説明します。

### 1 当社ホームページより本ソフトウェアをダウンロードする

ファイル名 : PAPV516\_Master\_Windows.zip

### 2 ダウンロードした「PAPV516\_Master\_Windows.zip」を解凍する

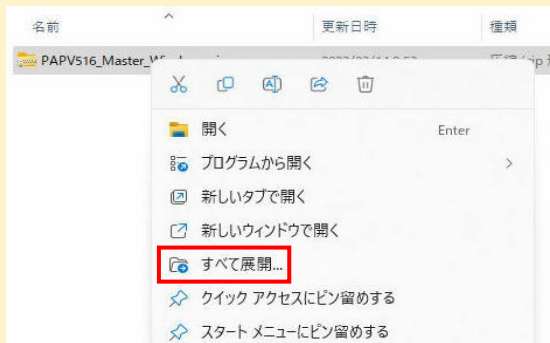
#### 参考

「PAPV516\_Master\_Windows.zip」を解凍すると、「PAPV516\_Master\_Windows」フォルダが作成されます。

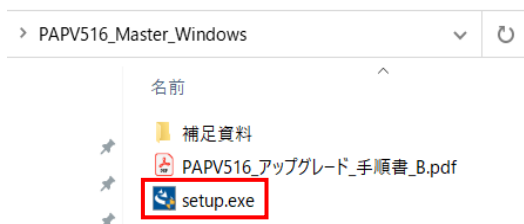
#### 注意

ダウンロードしたファイルが「フォルダにチャックのついたアイコン」の場合、ダブルクリックでは正常に解凍できないことがありますので、必ず、以下の方法で解凍してください。

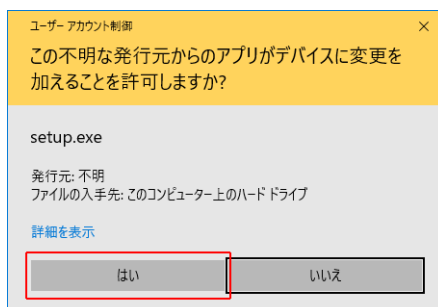
- ① PAPV516\_Master\_Windows.zip アイコンを右クリックする
- ② コンテキストメニューの「すべて展開(T)」をクリックし、デスクトップ等、分かり易い場所を指定する



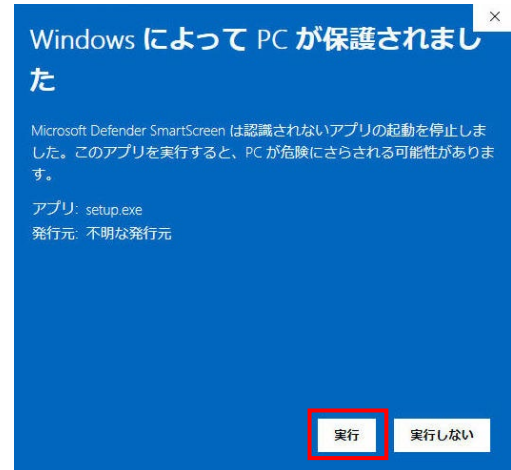
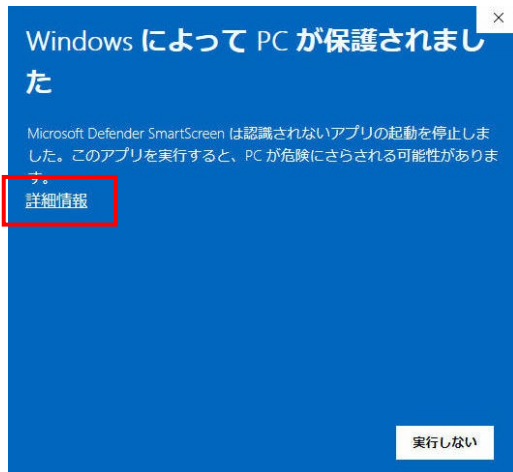
### 3 「PAPV516\_Master\_Windows」フォルダを開き、setup.exe をダブルクリックする



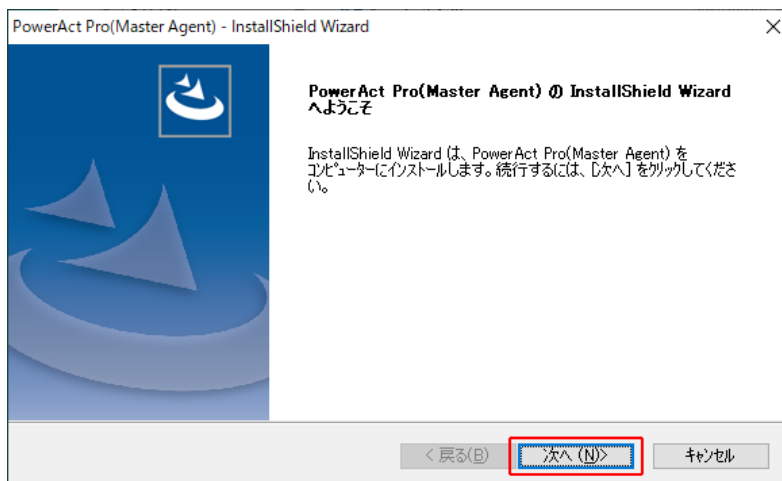
### 4 [はい] ボタンをクリックする



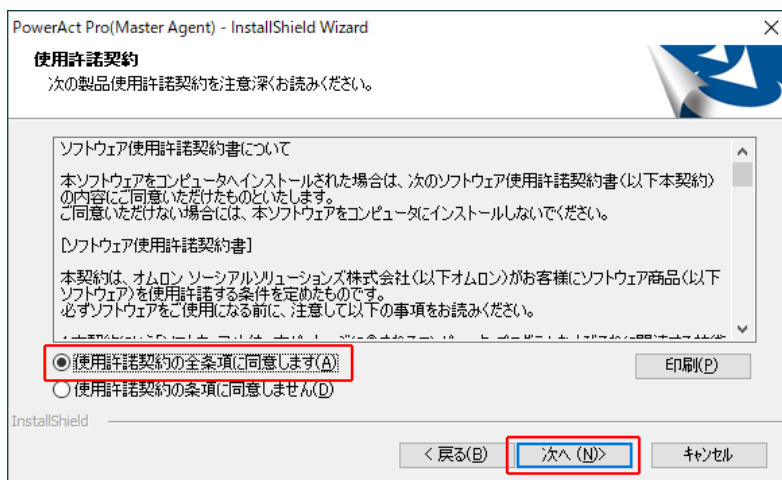
- 5 下記画面が表示された場合は [詳細情報] をクリックし、表示された画面で [実行] ボタンをクリックする



- 6 [次へ(N)] ボタンをクリックする



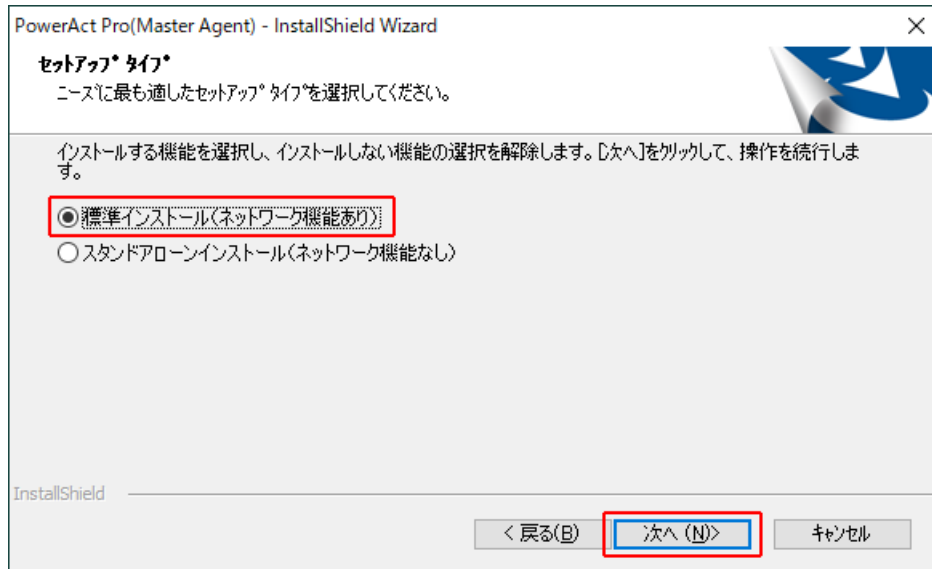
- 7 「使用許諾契約」に同意いただければ「使用許諾契約の全条項に同意します(A)」を選択し、[次へ(N)] ボタンをクリックする



### 参考

使用許諾契約に同意いただけない場合は本ソフトウェアを使用できませんので、[キャンセル] ボタンをクリックしインストールを中止してください。

- 8 「標準インストール (ネットワーク機能あり)」を選択して、[次へ(N)] ボタンをクリックする

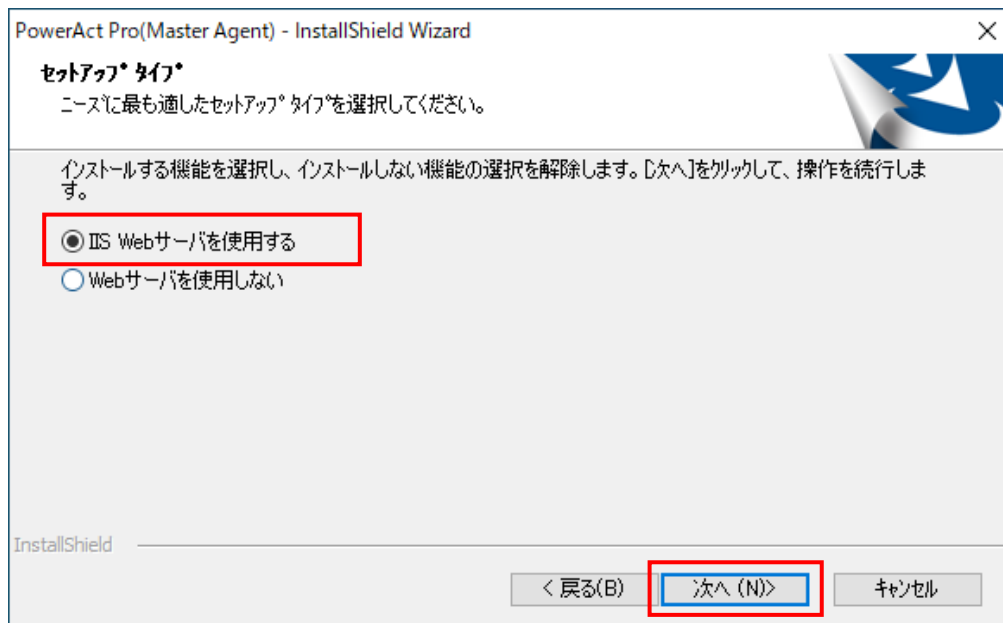


### 参考

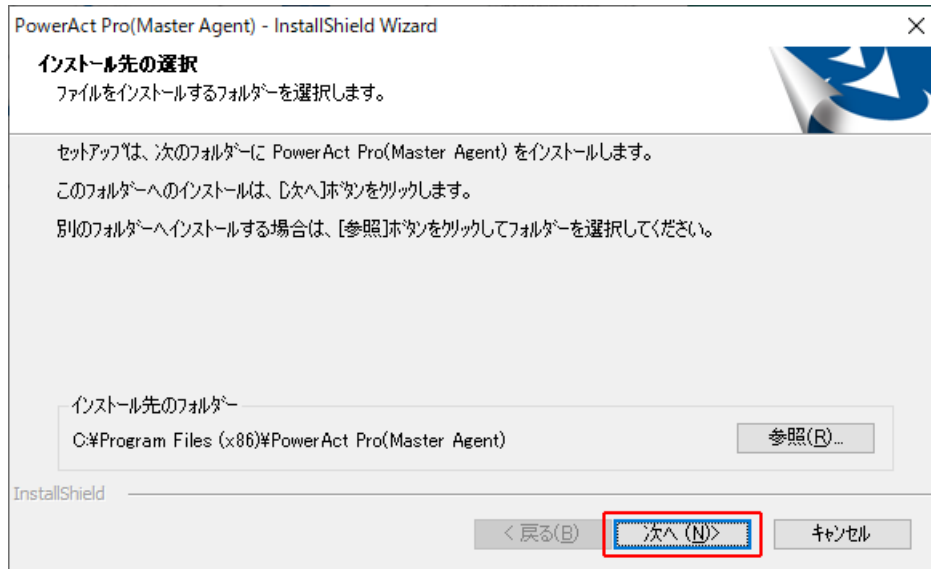
「標準インストール」を選択した場合は、ネットワーク経由で以下の機能を利用できます。

- Web モニタ画面で UPS の状態確認や制御、各種設定
- スレーブをインストールしたコンピュータのシャットダウン
- SNMP を利用したシャットダウン警告や指定したコンピュータへの UPS の動作情報の通知

- 9 「IIS Web サーバを使用する」を選択し、[次へ(N)] ボタンをクリックする



## 10 [次へ(N)] ボタンをクリックする

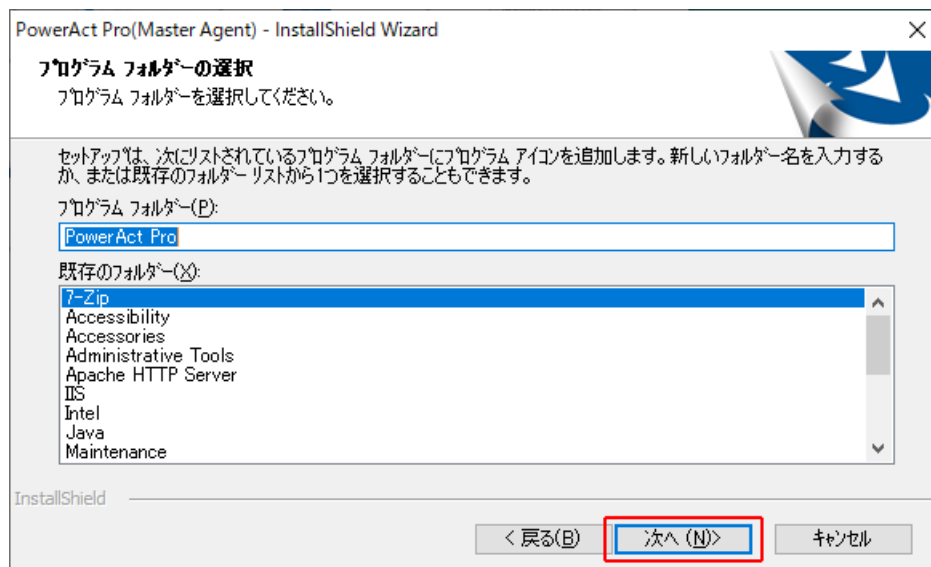
**注意**

本ソフトウェアを書き込み禁止のフォルダやネットワークドライブにインストールしないでください。  
必ずローカルコンピュータのリードライト可能なハードディスクにインストールしてください。

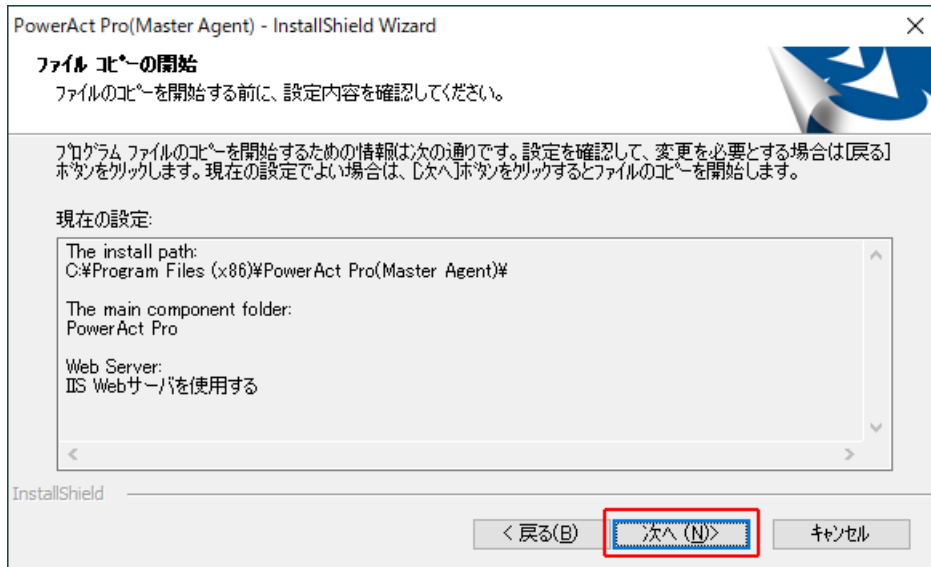
**参考**

本画面では本ソフトウェアのインストール先の変更が可能です。  
変更する場合は [参照(R)] ボタンでインストール先を選択してください。

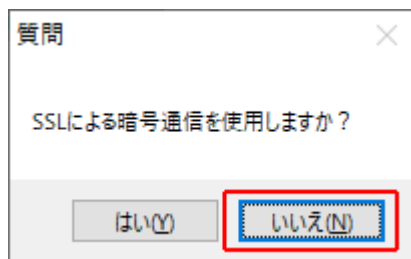
## 11 [次へ(N)] ボタンをクリックする



## 12 [次へ(N)] ボタンをクリックする

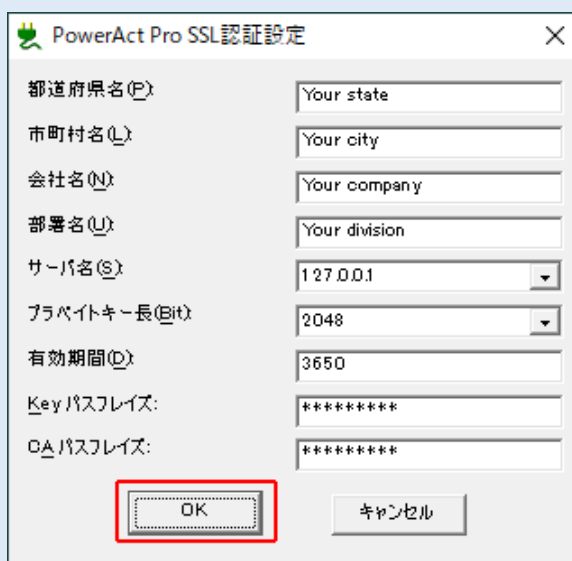


## 13 [いいえ(N)] ボタンをクリックする



## 参考

- ・暗号通信を使用する場合は [[はい(Y)] を選択し、以下の画面は [OK] ボタンで閉じてください。



- ・ PowerAct Pro のインストールが完了したら、「サーバ証明書」をインストールしてください。

👉 P.23 「3-4 サーバ証明書のインストール」



- 14 「自動」または「手動」を選択し、[OK] ボタンをクリックする

通信ポートの設定

通信ポートの設定方法を選択してください。

通信ポート 自動

OK

#### 参考

「自動」を選択した場合、COM ポート、USB ポートの順に UPS を自動検索します

「手動」を選択した場合、設定した COM ポートのみ検索します

👉 P.72 「7-2-4 「通信ポートの設定」で「手動」を選択する場合」

- 15 結果を確認し [OK] ボタンをクリックする

通信ポートテスト結果

No.	通信ポート	UPS形式
1	USB1	BNI 00T

OK

#### 参考

「通信ポートテスト結果」が空欄の場合、本ソフトウェアと UPS の通信ができていません。インストール上は問題ありませんので、手順 16 の注意を確認した後、手順 17 に進んでください。

ここで UPS と通信させたい場合は P.58 「7-2 UPS と通信ができない」をご確認ください。

#### 注意

「通信ポートテスト結果」の結果が空欄の場合、次の手順 15、16 の画面は表示されません。

- 16 「UPS 使用開始日」、「バッテリー使用開始日（交換日）」、「次回のバッテリー交換（予定日）」を設定し、  
[OK] ボタンをクリックする

バッテリー使用開始日（交換日）設定

【注意】  
2000年1月1日以前の日付を設定することはできません。  
設定する日付を再入力してください。

UPS 使用開始日:

USB 1 2017-03-05

バッテリー使用開始日（交換日）:

2017-03-05

次回のバッテリー交換（予定日）

2020-03-05

OK キャンセル

- 17 [OK] ボタンをクリックする

バッテリー使用開始日（交換日）設定結果

No.	通信ポート	バッテリー使用開始日
1	USB 1	2017-03-05

OK

### 注意

バッテリー使用開始日を設定した後、以下警告画面が表示されることがあります。

警告

HTTPポートをチェックしてください。  
PowerAct Proが使用するHTTPポートは、すでに使用されています。または  
間違っています。

OK

この警告が出たら HTTP ポート番号を確認してください。

7-1 「HTTP ポートをチェック」の警告が出たら」

## 18 [OK] ボタンをクリックする

The screenshot shows the 'Shutdown Parameters' dialog box with the following settings:

- UPS出力コンセント選択: 出力コンセントA (制御なし)
- 待機時間: 60 秒
- シャットダウン開始遅延: 0 秒
- 外部コマンドライン: (empty)
- 外部コマンド 実行時間: 0 秒
- シャットダウンに必要な時間: 180 秒
- OS 終了モード: 「休止状態」で終了する
- 仮想サーバ終了モード: 「OS」が終了する
- ゲストOS終了モード: 「シャットダウン」で終了する
- UPS自動停止: する

その他のデバイス:

- 出力コンセントA (制御なし): 0 秒
- 出力コンセントB (制御あり): 180 秒
- 出力コンセントC (制御あり): 180 秒

入力電源異常時の最大バックアップ時間

- 入力電源異常時の最大バックアップ時間: 0 分

The 'OK' button is highlighted with a red rectangle.

**参考**

「シャットダウンパラメータ」画面ではシャットダウン動作等、本ソフトウェアの一部の機能が設定できます。

☞P.41 「5-2 シャットダウンパラメータ設定 - Web サーバ不使用 - 」

「PowerAct Pro モニタ」ではすべての機能が設定できます。

5-1 シャットダウンパラメータ設定 - Web サーバ使用 - 」

**19** パスワードを設定し [OK] ボタンをクリックする

アクセス権設定

ログインID[Admin]のパスワードを設定してください。  
設定したパスワードは忘れないようにしてください。

パスワード

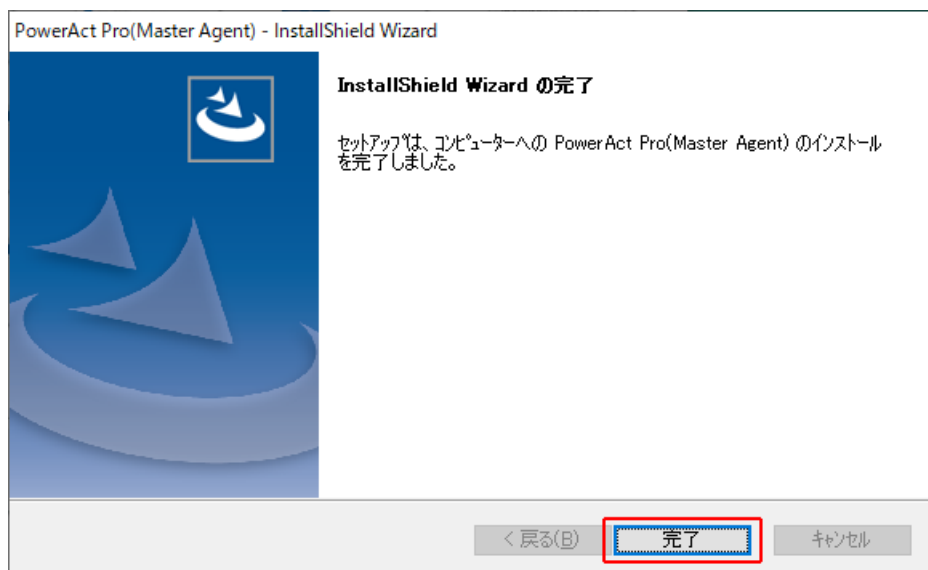
パスワードの確認入力

**注意**

パスワードは 1～15 文字、半角英数字 (A～Z、a～z、0～9) で設定してください。  
大文字/小文字は区別されます。  
設定したパスワードはメモを取るなどして必ず保存しておいてください。

**参考**

本パスワードは「PowerAct Pro モニタ」にログインするときのパスワードです。  
5-1 シャットダウンパラメータ設定 - Web サーバ使用 -」の手順 4

**20** [完了] ボタンをクリックする**21** 「PAPV516\_Master\_Windows」フォルダを閉じる

以上で IIS を使用した本ソフトウェアのインストールは終了です。  
続いて、P.21 「3-3 ポップアップブロックの設定」に進んでください。

### 3-3 ポップアップブロックの設定

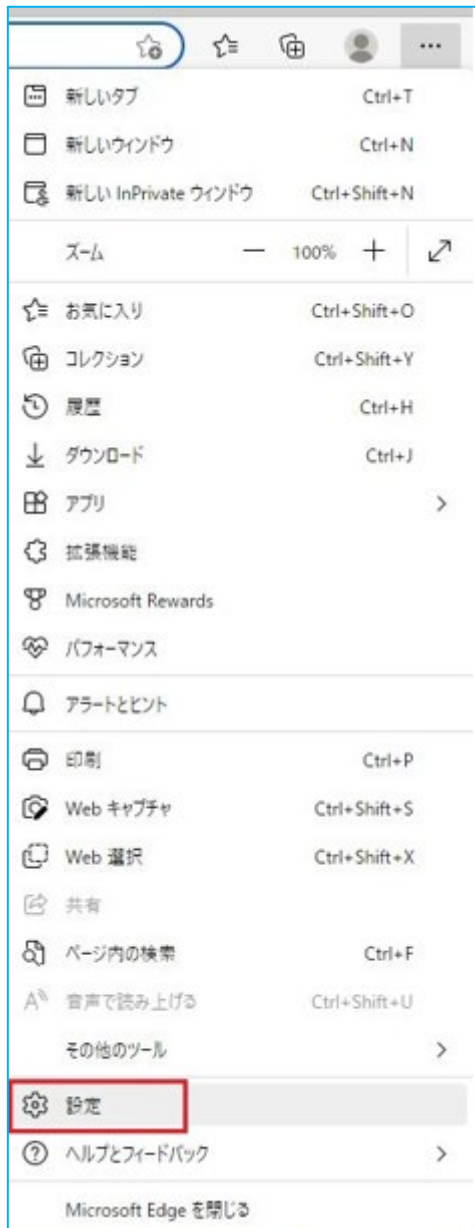
Edge を例にポップアップブロックの例外設定をします。

#### 参考

Edge 以外の場合もブラウザ側でポップアップブロックの例外設定をしてください。

例外設定の対象は「127.0.0.1」です。

- 1 「Edge」を開き、ツールバーから「設定」をクリックする



- 2 [Cookie とサイトのアクセス許可] の [ポップアップとリダイレクト] をクリックする



- 3 [サイト] 欄に「127.0.0.1」と入力し [追加] ボタンをクリックする



- 4 「サイトのアクセス許可」で「127.0.0.1」の追加を確認し、Edge の設定を終了する



以上でポップアップブロックの設定は終了です。

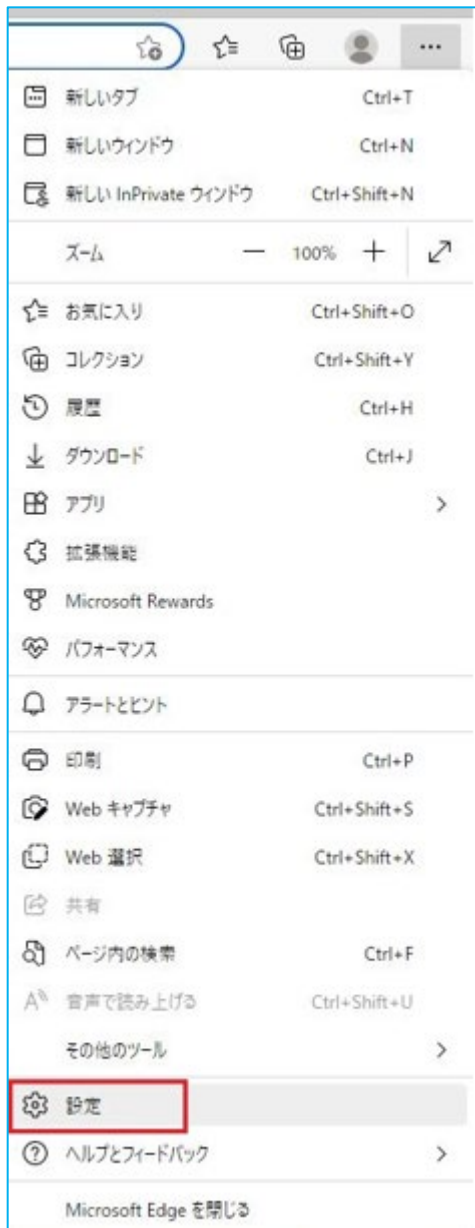
#### P.16 手順 12 の「SSL による暗号化通信」で

- ・「使用する」を選択した場合は、
  - P.23 「3-4 サーバ証明書のインストール」に進んでください。
- ・「使用しない」を選択した場合は、
  - 5-1 シャットダウンパラメータ設定 - Web サーバ使用 - に進んでください。

### 3-4 サーバ証明書のインストール

Edge を例に SSL 暗号化通信に使用するサーバ証明書をインストールします。

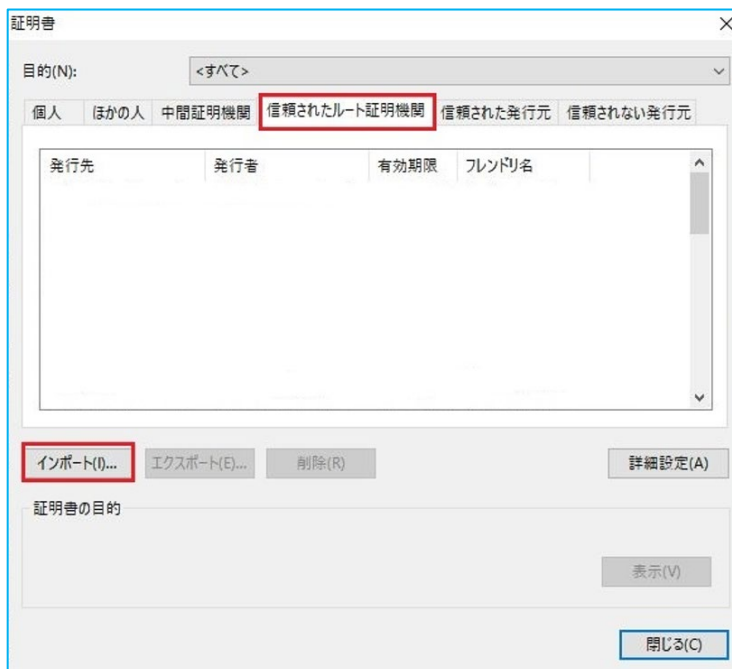
- 1 「Edge」を開き、ツールバーから「設定」をクリックする



## 2 「プライバシー、検索、サービス」の「証明書の管理」をクリックする



## 3 [証明書] から [信頼されたルート証明機関] タブの [インポート(I)] ボタンをクリックする

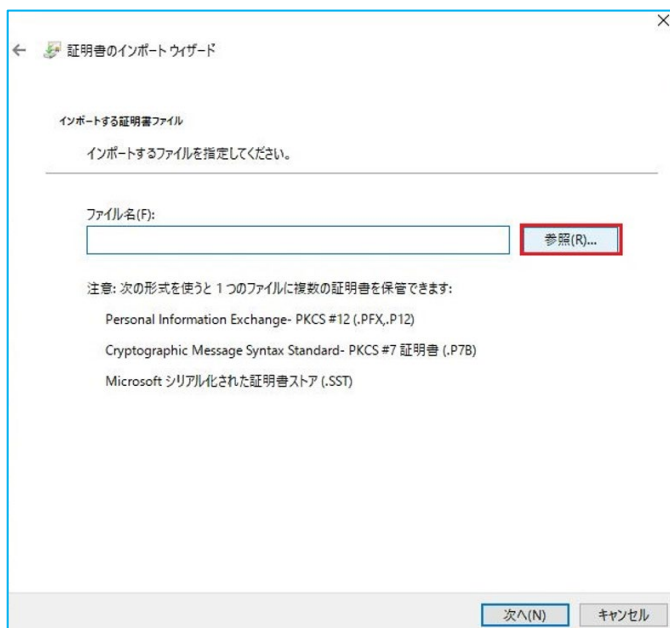




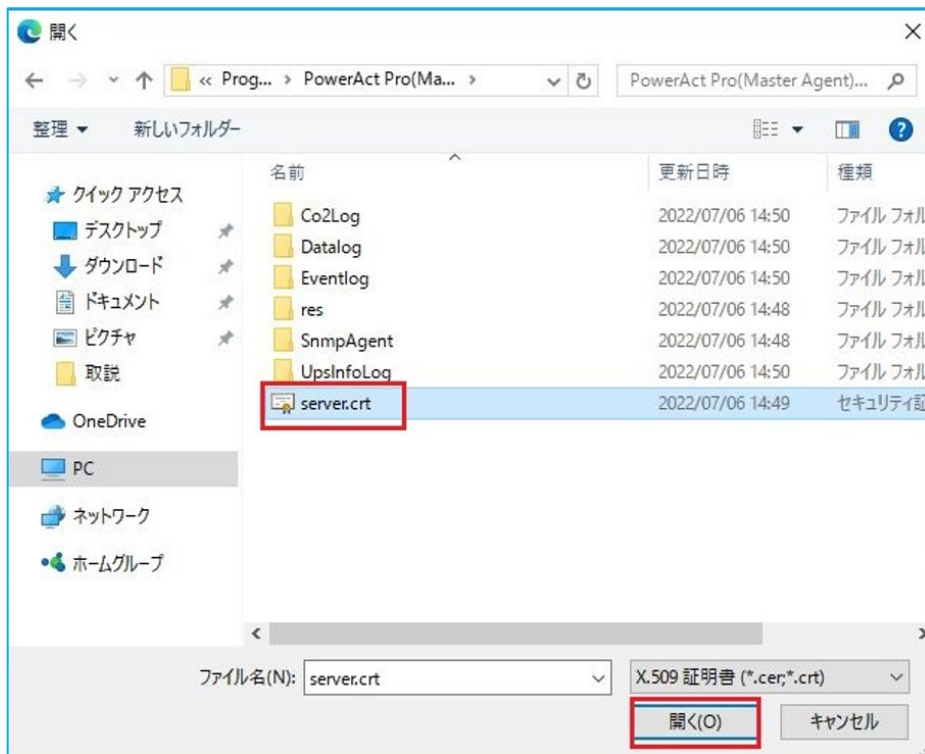
#### 4 [次へ(N)] ボタンをクリックする



#### 5 [参照(R)] ボタンをクリックする



- 6 「Program Files(x86)」フォルダ→「PowerAct Pro(Master Agent)」フォルダから「server.crt」を選択し、  
[開く(O)] ボタンをクリックする

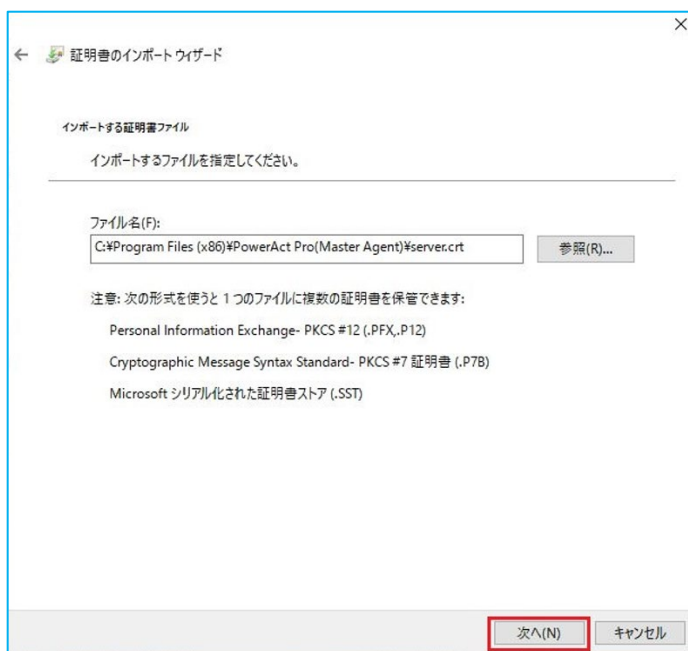


### 参考

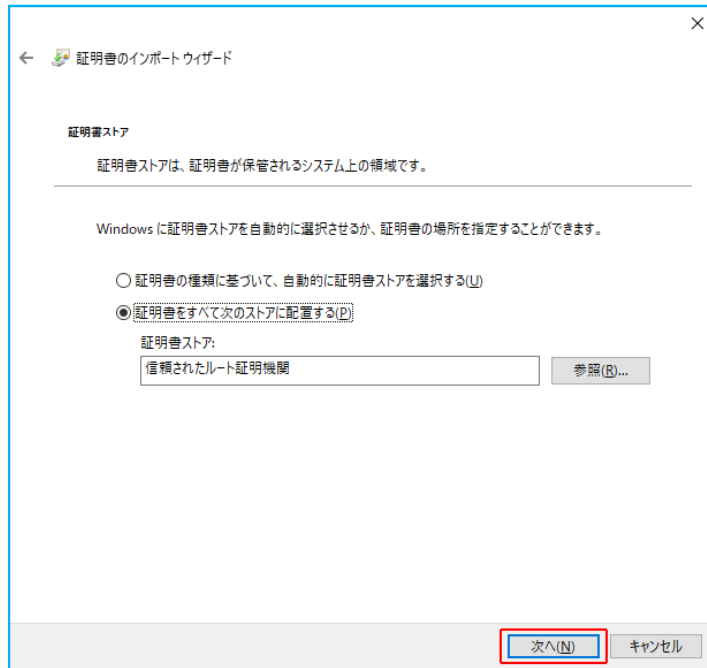
本ソフトウェアのデフォルトのインストール先は以下の階層です。

C:¥Program Files(x86)¥PowerAct Pro(Master Agent)

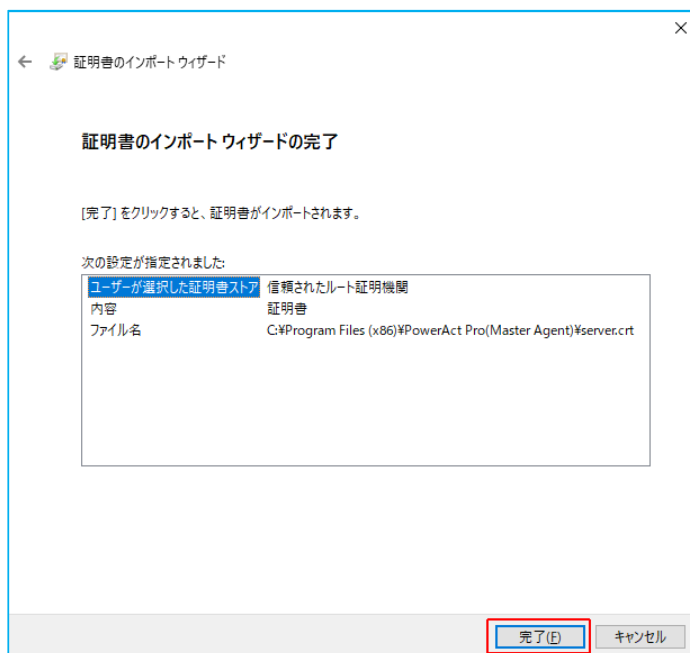
- 7 [次へ(N)] ボタンをクリックする



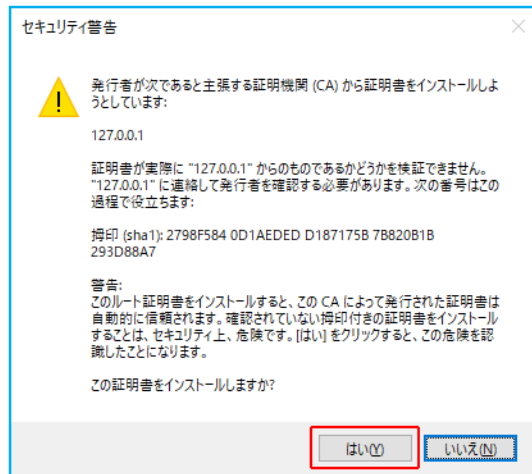
## 8 [次へ(N)] ボタンをクリックする



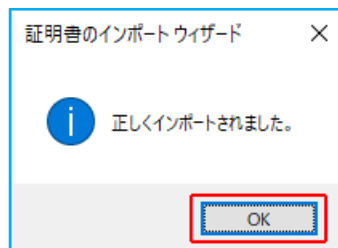
## 9 [完了] ボタンをクリックする



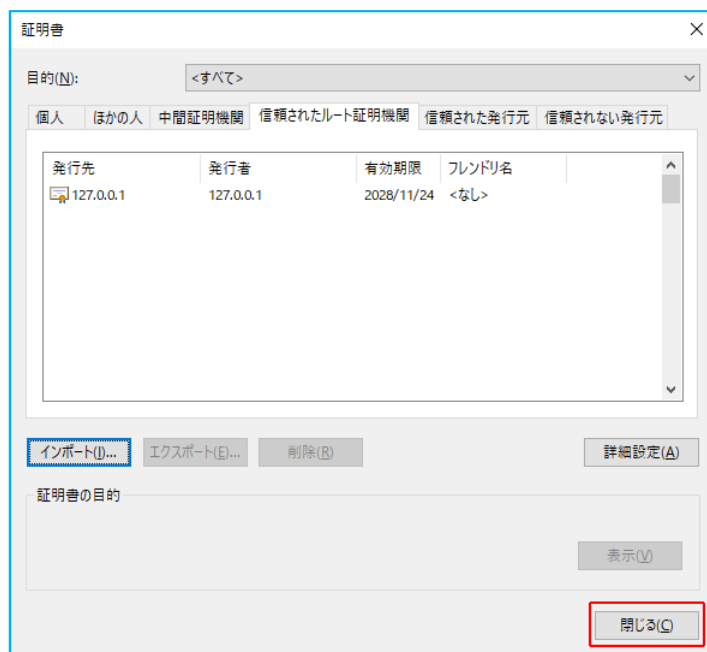
## 10 [(はい(Y))] ボタンをクリックする



## 11 [OK] ボタンをクリックする



## 12 [閉じる(C)] ボタンをクリックする



以上で IIS 使用時のサーバ証明書のインストールは終了です。

5-1 シャットダウンパラメータ設定 - Web サーバ使用 - に進んでください。

## 4 インストール方法 – Web サーバ不使用 –

### 4-1 本ソフトウェアのインストール

Web サーバを使用しない、本ソフトウェアのインストール手順を説明します。

- 1 当社ホームページより本ソフトウェアをダウンロードする  
ファイル名 : PAPV516\_Master\_Windows.zip
- 2 ダウンロードした「PAPV516\_Master\_Windows.zip」を解凍する

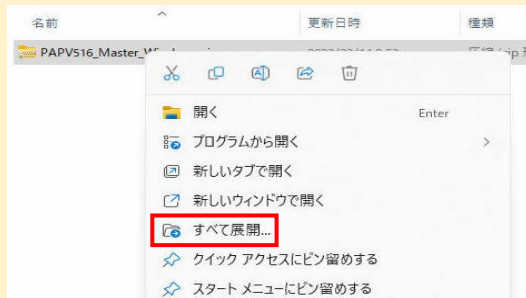
#### 参考

「PAPV516\_Master\_Windows.zip」を解凍すると、「PAPV516\_Master\_Windows」フォルダが作成されます。

#### 注意

ダウンロードしたファイルが「フォルダにチャックのついたアイコン」の場合、ダブルクリックでは正常に解凍できないことがありますので、必ず、以下の方法で解凍してください。

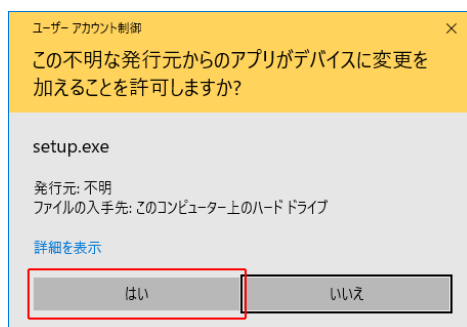
- ① PAPV516\_Master\_Windows.zip アイコンを右クリックする
- ② コンテキストメニューの「すべて展開(T)」をクリックし、デスクトップ等、分かり易い場所を指定する



- 3 「PAPV516\_Master\_Windows」フォルダを開き、setup.exe をダブルクリックする



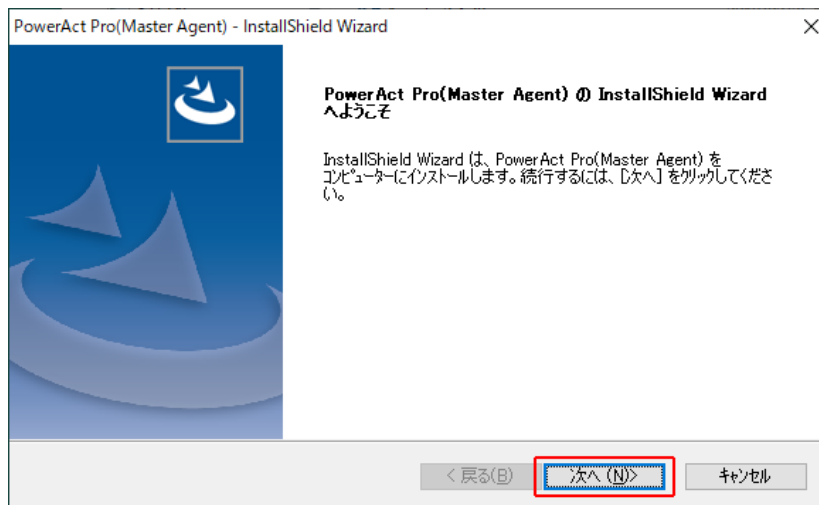
- 4 [はい] ボタンをクリックする



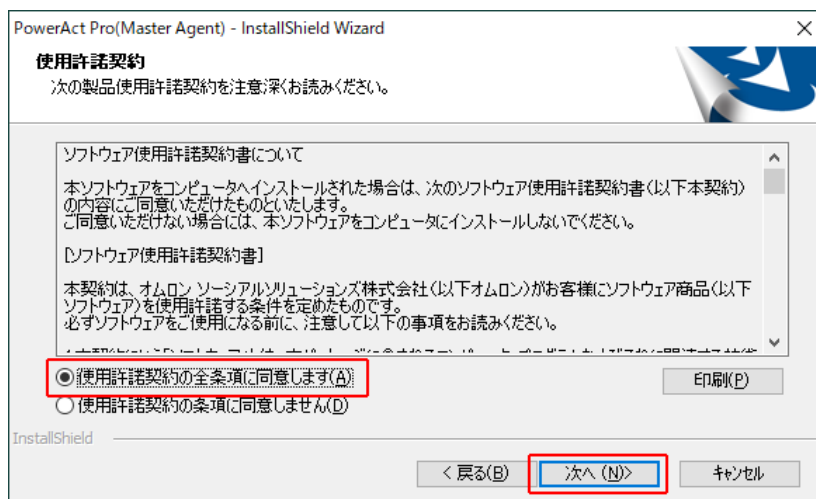
- 5 下記画面が表示された場合は「詳細情報」をクリックし、表示された画面で「実行」ボタンをクリックする



- 6 「次へ(N)」ボタンをクリックする



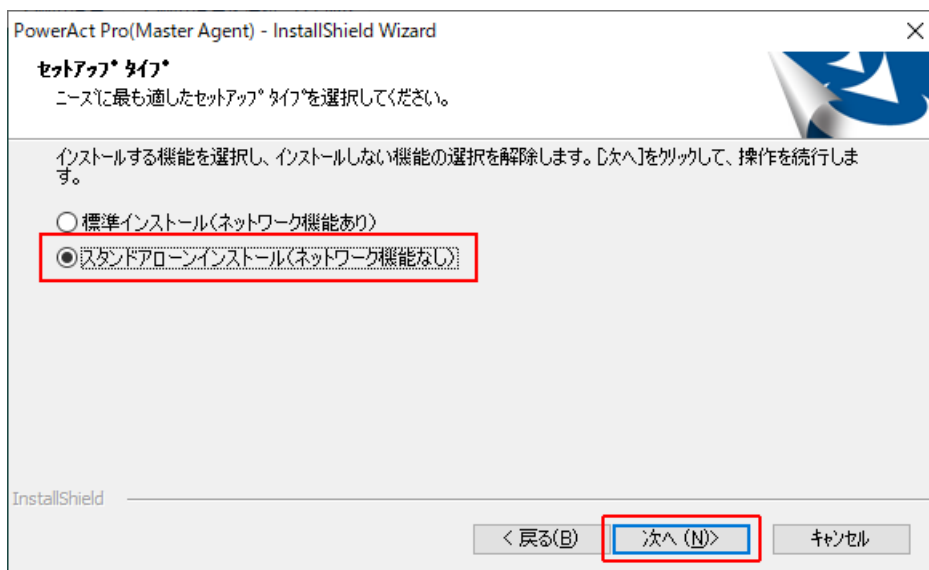
- 7 「使用許諾契約」に同意いただければ「使用許諾契約の全条項に同意します(A)」を選択し、  
「次へ(N)」ボタンをクリックする



## 参考

使用許諾契約に同意いただければ本ソフトウェアを使用できませんので、[キャンセル] ボタンをクリックしインストールを中止してください。

- 8 「スタンドアロンインストール (ネットワーク機能なし)」 を選択し、[次へ(N)] ボタンをクリックする

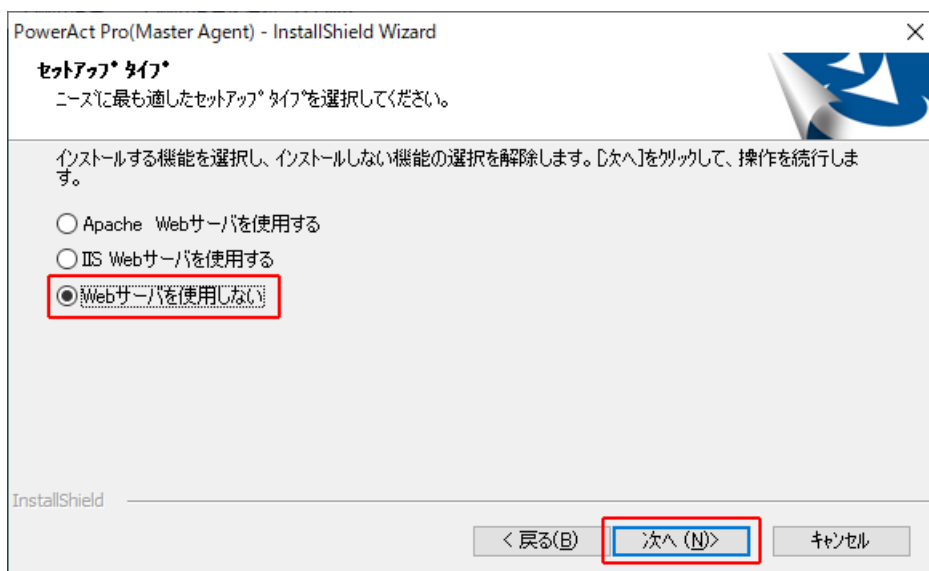


### 参考

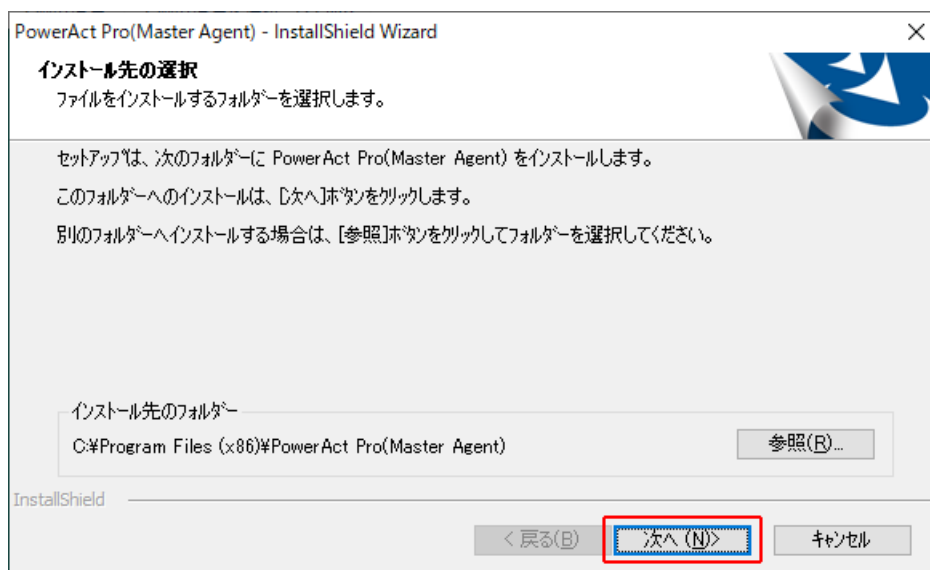
「標準インストール」を選択した場合は、ネットワーク経由で以下の機能を利用できます。

- Web モニタ画面で UPS の状態確認や制御、各種設定
- スレープをインストールしたコンピュータのシャットダウン
- SNMP を利用したシャットダウン警告や指定したコンピュータへの UPS の動作情報の通知

- 9 「Web サーバを使用しない」 を選択し [次へ(N)] ボタンをクリックする



## 10 [次へ(N)] ボタンをクリックする

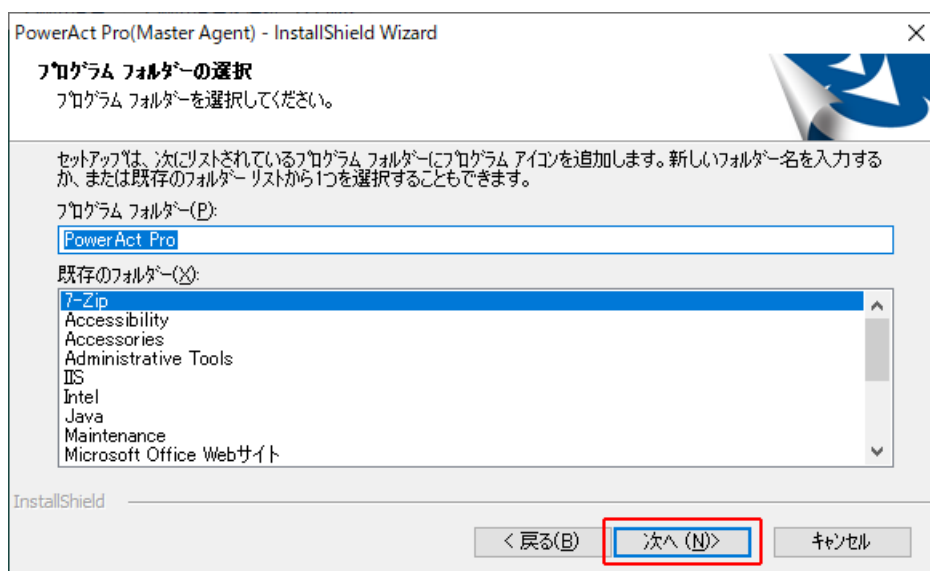
**注意**

本ソフトウェアを書き込み禁止のフォルダやネットワークドライブにインストールしないでください。  
必ずローカルコンピュータのリードライト可能なハードディスクにインストールしてください。

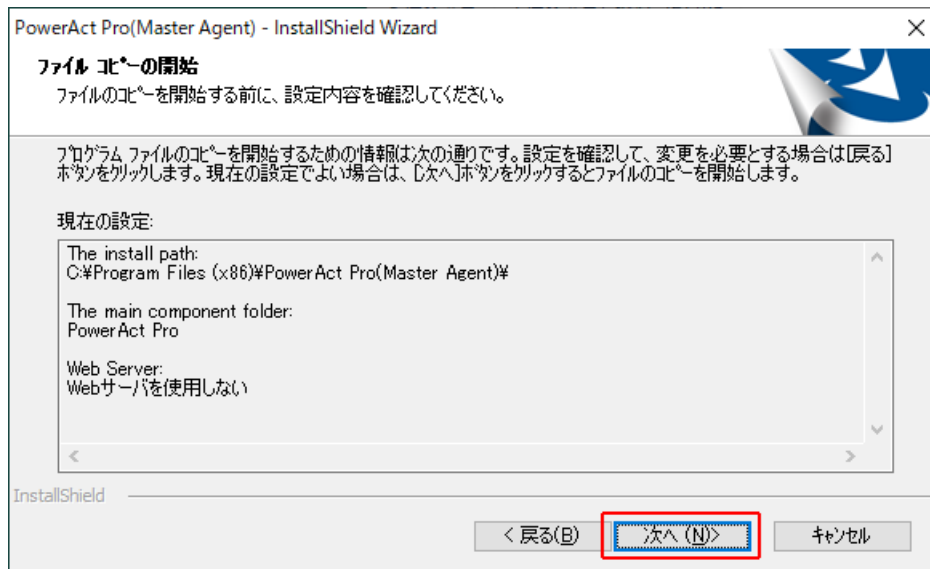
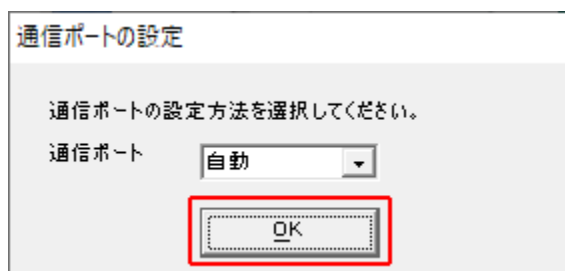
**参考**

本画面では本ソフトウェアのインストール先の変更が可能です。  
変更する場合は [参照(R)] ボタンでインストール先を選択してください。

## 11 [次へ(N)] ボタンをクリックする





**12** [次へ(N)] ボタンをクリックする**13** 「自動」または「手動」を選択して、[OK] ボタンをクリックする**参考**

「自動」を選択した場合、COM ポート、USB ポートの順に UPS を検索します。

「手動」を選択した場合、設定した COM ポートのみ検索します。

👉 P.72 「7-2-4 「通信ポートの設定」で「手動」を選択する場合」

## 14 結果を確認して [OK] ボタンをクリックする

通信ポートテスト結果

No.	通信ポート	UPS形式
1	USB1	BNI 00T

**参考**

「通信ポートテスト結果」が空欄の場合、本ソフトウェアとUPSの通信ができていません。インストール上は問題ありませんので、[OK] ボタンをクリックして手順 16 に進んでください。

ここでUPSと通信させたい場合はP.58「7-2 UPSと通信ができない」をご確認ください。

**注意**

「通信ポートテスト結果」が空欄の場合、手順 14、15 の画面は表示されません。

## 15 「UPS 使用開始日」、「バッテリー使用開始日（交換日）」、「次回のバッテリー交換（予定日）」を設定し [OK] ボタンをクリックする

バッテリー使用開始日（交換日）設定

【注意】  
2000年1月1日以前の日付を設定することはできません。  
設定する日付を再入力してください。

UPS 使用開始日:

USB 1 2019-03-18

バッテリー使用開始日（交換日）:

2019-03-18

次回のバッテリー交換（予定日）:

2022-03-18

## 16 [OK] ボタンをクリックする

バッテリー使用開始日（交換日）設定結果

No.	通信ポート	バッテリー使用開始日
1	USB 1	2019-03-18

## 17 [OK] ボタンをクリックする

## 参考

インストール完了後、デスクトップに作成される [シャットダウンパラメータ設定] のショートカットから本画面を表示できます。

## 18 パスワードは 1~15 文字の半角英数字 (A~Z、a~z、0~9) で設定し [OK] ボタンをクリックする

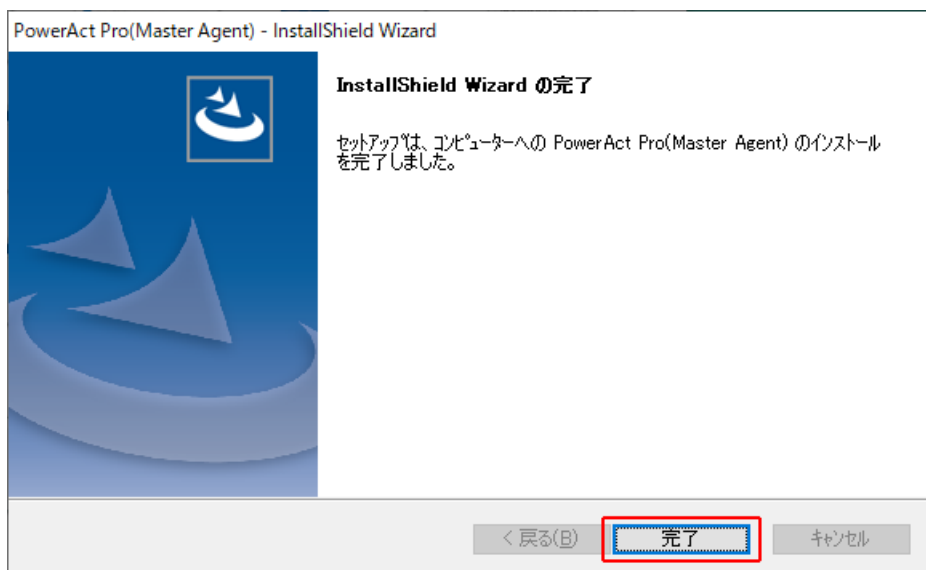
## 注意

大文字/小文字は区別されます。設定したパスワードはメモを取るなどして必ず保存しておいてください。

## 参考

本パスワードは PowerAct Pro コンソールモニタにログインするときのパスワードです。

☞ P.81 「7-2-3 Web サーバ不使用環境」手順 4

**19** [完了] ボタンをクリックする**20** 「PAPV516\_Master\_Windows」フォルダを閉じる

以上で Web サーバを使用しない本ソフトウェアのインストールは終了です。

続いて P.41 「5-2 シャットダウンパラメータ設定－Web サーバ不使用－」に進んでください。

## 5 シャットダウン動作の確認

### 5-1 シャットダウンパラメータ設定 – Web サーバ使用 –

PowerAct Pro モニタを使ったシャットダウン動作の設定方法について説明します。

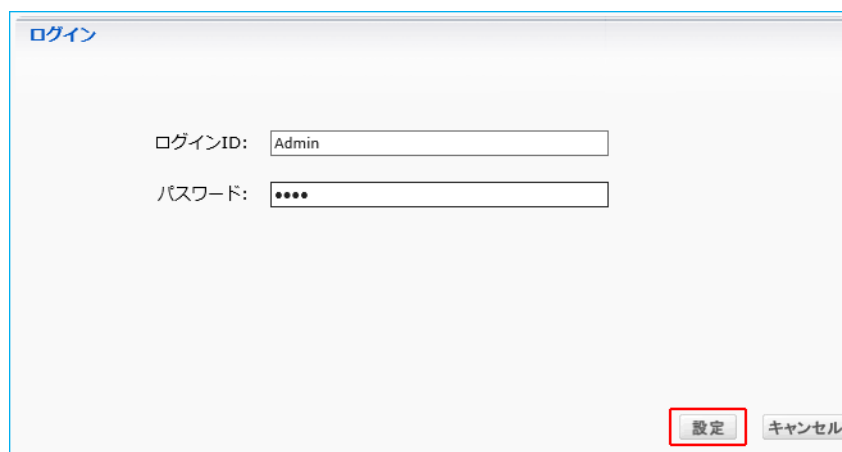
- 1 デスクトップの [PowerAct Pro モニタ] アイコンをダブルクリックする



- 2 本ソフトウェアをインストールしたコンピュータ名をクリックする



- 3 「ログイン ID」に「Admin」、「パスワード」に本ソフトウェアのインストール時に設定したパスワードを入力し「設定」ボタンをクリックする



#### 注意

「Admin」の「A」は必ず大文字で入力してください。大文字/小文字は区別されます。

## 4 [環境設定] ボタンをクリックする

The screenshot shows the OMRON UPS web interface. The left sidebar contains several menu items, with '環境設定' (Environment Settings) highlighted by a red box. The main content area displays various system parameters and status information.

System Information:

- 日時: 2019年03月18日 13:57:18
- 次のバッテリー交換: 2020-03-18
- 前回のバッテリー使用開始日(交換日): 2019年03月18日

Environment Settings Menu:

- 環境設定 (highlighted)
- スケジュール
- イベント情報
- イベントログ
- データログ
- 終了アプリケーション情報
- エージェント検索
- ヘルプ

UPS Status and Settings:

- UPS型式: BN100T
- UPS状態: 商用運転中
- 出力コンセントA (制御なし): 出力中
- 出力コンセントB (制御あり): 出力中
- 出力コンセントC (制御あり): 出力中
- バッテリー状態: 正常
- 増設バッテリー:

Communication and Test Settings:

- ブザー: ならさない
- ファンクションテストステータス: しない
- バッテリー自動テスト: する
- UPSコールドスタート機能: しない
- 出力電圧/入力感度: 100V/標準感度
- UPS自動再起動: する
- 通信ポート: USB 1 (設定)
- テスト結果:

Power and Frequency Graphs:

- 入力電圧: 40, 60, 80, 100, 120, 140 V (101.7 V)
- 出力電圧: 40, 60, 80, 100, 120, 140 V (102.3 V)
- 入力周波数: 40, 45, 50, 55, 60, 65 Hz (49.9 Hz)
- 出力周波数: 40, 45, 50, 55, 60, 65 Hz (49.9 Hz)

**注意**

「UPS 型式」が空欄の場合、本ソフトウェアとUPSの通信ができていません。

P.58「7-2 UPSと通信ができない」を参照し、対処してください。

## 5 環境に合わせてシャットダウンパラメータの設定をする

The screenshot shows the 'シャットダウンパラメータ' (Shutdown Parameters) configuration page. The breadcrumb trail is: シャットダウンパラメータ > UPS起動/再起動 > ログオプション > 通信設定. The page is set to 'デフォルト' (Default).

Shutdown Parameters Configuration:

- エージェント選択: MYCOMPUTER(マスター) (設定)
- UPS出力コンセント選択: 出力コンセントA (制御なし) (設定)
- 待機時間: 60 秒
- シャットダウン開始遅延: 0 秒
- 外部コマンドライン: (空欄)
- 外部コマンド実行時間: 0 秒
- シャットダウンに必要な時間: 180 秒
- OS終了モード: 「休止状態」で終了する
- 仮想サーバ終了モード: 「OS」が終了する
- ゲストOS終了モード: 「シャットダウン」で終了する
- UPS自動停止: する

Buttons: 設定, キャンセル

### ■ 基本設定（必ず使う設定）

項目	設定内容
待機時間	<p>本ソフトウェアが入力電源異常を検出してから、シャットダウン動作を開始するまでの時間を設定します。</p> <p>初期値：60 秒</p> <p>☞待機時間内に復電（電源の復旧）を検出した場合、シャットダウン動作は開始しません。</p> <p>☞0 秒に設定した場合は入力電源異常を検出後、即シャットダウンが始まります。ある程度余裕をもった時間を設定してください。</p>
シャットダウンに必要な時間	<p>OS がシャットダウンを開始した時点から、UPS が自動停止するまでの時間を設定します。</p> <p>初期値：180 秒</p> <p>※OS のシャットダウン途中で UPS が出力停止しないように、ある程度余裕をもった時間を設定してください。</p>
OS 終了モード	<p>OS の終了モードを設定します。</p> <p>「シャットダウン」で終了する</p> <p>「休止状態」で終了する</p>
UPS 自動停止	<p>シャットダウン時に UPS を停止する設定です。</p> <p>初期値：する</p> <p>☞する UPS は「シャットダウンに必要な時間」経過後、出力停止します。</p> <p>☞しない UPS はバッテリーが尽きるまでバックアップ運転を続けます。</p>

## ■ 応用設定（環境により使う設定）

項目	設定内容
シャットダウン開始遅延	UPS に複数台のコンピュータを接続している環境で、他のコンピュータよりシャットダウンの開始を遅くする場合に設定します。 設定範囲：0～600 秒（60 秒単位で設定できます） 初期値：0 秒（遅延なし）
外部コマンドライン	シャットダウン時に実行するプログラムのコマンドを入力します。 プログラムの実行時間は下段の「外部コマンド実行時間」で設定します。 ※「実行するプログラム」とはデータを保存するプログラムなどを指します。
外部コマンド実行時間	「外部コマンドライン」で設定したプログラムの実行に必要な時間を設定します。実行中は OS のシャットダウン動作を一時停止します。 設定範囲：0～600 秒（60 秒単位で設定できます） 初期値：0 秒 ※Hyper-V 機能使用時に仮想サーバを本ソフトウェアで終了する場合、ゲスト OS（仮想サーバの OS）のシャットダウンに必要な時間を設定してください。
仮想サーバ終了モード （ゲスト OS の終了管理）	ゲスト OS の終了処理を OS 側で行うか、本ソフトウェアで行うか、設定します。  「OS」が終了する： ゲスト OS を OS 側の管理で終了させるモードです。 ※ [ゲスト OS 終了モード] は無効になります。ゲスト OS のシャットダウン時の動作は「Hyper-V マネージャ」で設定してください。  「PowerAct Pro」が終了する： ゲスト OS を本ソフトウェアで終了させるモードです。 追加で以下の設定が必要です。 1 「外部コマンド実行時間」でゲスト OS の終了に必要な時間を設定します。選択範囲は 60 秒～600 秒（60 秒単位）です。 2 「ゲスト OS 終了モード」で、ゲスト OS の終了方法を [シャットダウン]、[休止状態] から選択します。 ※「ゲスト OS 終了モード」はシャットダウンパラメータ起動時にゲスト OS が稼働状態にないと、選択できません。
ゲスト OS 終了モード	ゲスト OS の終了方法を [「シャットダウン」で終了する]、[「休止状態」で終了する] から選択します。

### 参考

設定を変更したら、必ず [設定] ボタンをクリックしてください。

以上で Web サーバを使用したシャットダウンパラメータの説明は終了です。

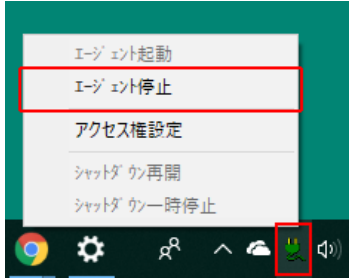
続いて P.46 「5-3 シャットダウンテスト」に進んでください。



## 5-2 シャットダウンパラメータ設定 – Web サーバ不使用 –

シャットダウンパラメータ設定を使ったシャットダウン動作の設定方法について説明します。

- 1 タスクトレイの常駐アイコンを右クリックし [エージェント停止] を選択する



- 2 常駐アイコンに×が付くことを確認する



- 3 デスクトップの [シャットダウンパラメータ設定] をダブルクリックする



### 注意

[シャットダウンパラメータ設定] で設定を変更する場合は、必ずエージェントを停止してください。

### 参考

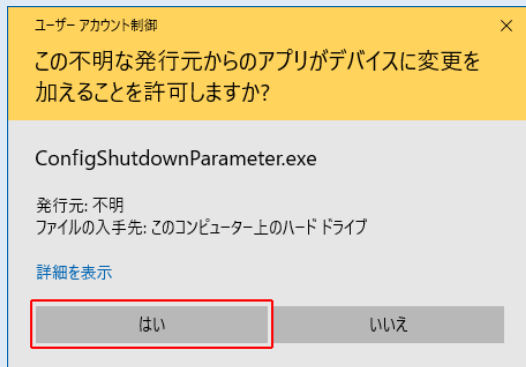
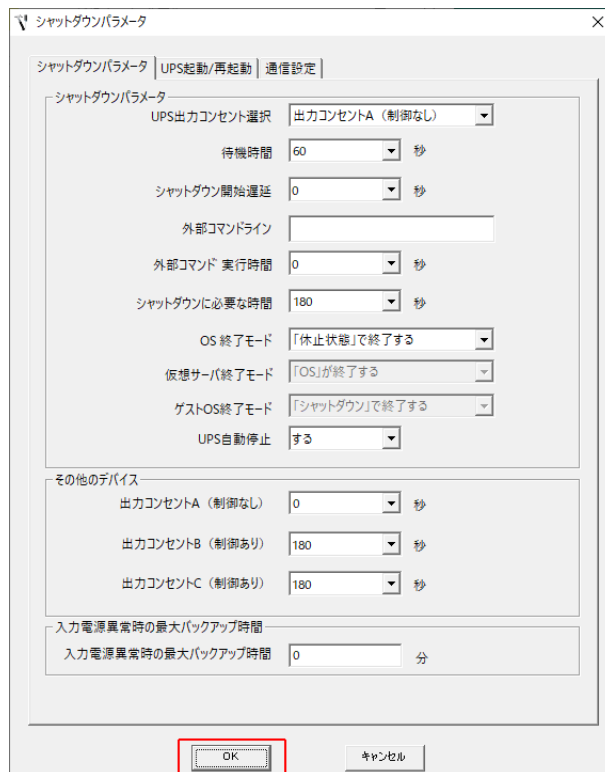
「シャットダウンパラメータ設定」画面は、「スタート」からも開くことができます。

「PowerAct Pro」 → 「シャットダウンパラメータ設定」



**参考**

「シャットダウンパラメータ設定」をダブルクリックして以下警告画面が出たら [はい] ボタンをクリックしてください。

**4 環境に合わせてシャットダウンパラメータの設定をする**

### ■ 基本設定（必ず使う設定）

項目	設定内容
待機時間	<p>本ソフトウェアが入力電源異常を検出してから、シャットダウン動作を開始するまでの時間を設定します。</p> <p>初期値：60 秒</p> <p>☞待機時間内に復電（電源の復旧）を検出した場合、シャットダウン動作は開始しません。</p> <p>☞0 秒に設定した場合は入力電源異常を検出後、即シャットダウンが始まります。ある程度余裕をもった時間を設定してください。</p>
シャットダウンに必要な時間	<p>OS がシャットダウンを開始した時点から、UPS が自動停止するまでの時間を設定します。</p> <p>初期値：180 秒</p> <p>※OS のシャットダウン途中で UPS が出力停止しないように、ある程度余裕をもった時間を設定してください。</p>
OS 終了モード	<p>OS の終了モードを設定します。</p> <p>「シャットダウン」で終了する</p> <p>「休止状態」で終了する</p>
UPS 自動停止	<p>シャットダウン時に UPS を停止する設定です。</p> <p>初期値：する</p> <p>☞する UPS は「シャットダウンに必要な時間」経過後、出力停止します。</p> <p>☞しない UPS はバッテリーが尽きるまでバックアップ運転を続けます。</p>

### ■ 応用設定（環境により使う設定）

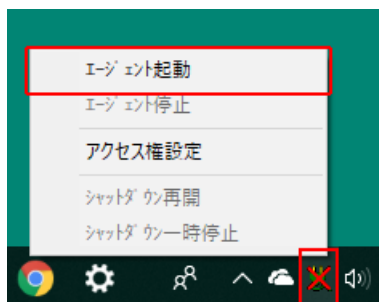
項目	設定内容
シャットダウン開始遅延	UPS に複数台のコンピュータを接続している環境で、他のコンピュータよりシャットダウンの開始を遅くする場合に設定します。 設定範囲：0～600 秒（60 秒単位で設定できます） 初期値：0 秒（遅延なし）
外部コマンドライン	シャットダウン時に実行するプログラムのコマンドを入力します。 プログラムの実行時間は下段の「外部コマンド実行時間」で設定します。 ※「実行するプログラム」とはデータを保存するプログラムなどを指します。
外部コマンド実行時間	「外部コマンドライン」で設定したプログラムの実行に必要な時間を設定します。実行中は OS のシャットダウン動作を一時停止します。 設定範囲：0～600 秒（60 秒単位で設定できます） 初期値：0 秒 ※Hyper-V 機能使用時に仮想サーバを本ソフトウェアで終了する場合、ゲスト OS（仮想サーバの OS）のシャットダウンに必要な時間を設定してください。
仮想サーバ終了モード （ゲスト OS の終了管理）	ゲスト OS の終了処理を OS 側で行うか、本ソフトウェアで行うか、設定します。  「OS」が終了する： ゲスト OS を OS 側の管理で終了させるモードです。 ※ [ゲスト OS 終了モード] は無効になります。ゲスト OS のシャットダウン時の動作は「Hyper-V マネージャ」で設定してください。  「PowerAct Pro」が終了する： ゲスト OS を本ソフトウェアで終了させるモードです。 追加で以下の設定が必要です。 1 「外部コマンド実行時間」でゲスト OS の終了に必要な時間を設定します。選択範囲は 60 秒～600 秒（60 秒単位）です。 2 「ゲスト OS 終了モード」で、ゲスト OS の終了方法を [シャットダウン]、[休止状態] から選択します。 ※「ゲスト OS 終了モード」はシャットダウンパラメータ起動時にゲスト OS が稼働状態にないと、選択できません。
ゲスト OS 終了モード	ゲスト OS の終了方法を [「シャットダウン」で終了する]、[「休止状態」で終了する] から選択します。

#### 参考

設定を変更したら、必ず [OK] ボタンをクリックしてください。

5 シャットダウンパラメータ設定の [OK] ボタンをクリックする

6 常駐アイコンを右クリックし [エージェント起動] をクリックする



7 常駐アイコンのxが消えることを確認する



以上で Web サーバ不使用時のシャットダウンパラメータの設定は終了です。

続いて P.46 「5-3 シャットダウンテスト」に進んでください。

## 5-3 シャットダウンテスト

UPS を停電状態にしてコンピュータのシャットダウンテストを実施します。

### 参考




シャットダウンテストでは以下 2 つの動作を確認してください。

- ① コンピュータがシャットダウンすること
- ② コンピュータのシャットダウン完了後に UPS の出力が停止すること

☞ 動作イメージは P.81 「

付-1 シャットダウン動作シーケンス」をご確認ください。

- 1 タスクトレイの常駐アイコンが「商用運転中」になっていることを確認する

アイコン	状態	備考
	商用運転中	UPS と本ソフトウェアは通信中です。 入力電源に異常はありません。
	通信エラー	UPS と本ソフトウェアの通信ができていません。 この状態では停電が発生してもシャットダウンできません。 通信ケーブルがしっかり接続されているか確認してください。 P.58 「7-2 UPS と通信ができない」をご確認ください。
	入力電源異常	入力電源の異常で UPS はバックアップ運転（バッテリー出力）中 です。 原因として停電、電圧または周波数の変動などが考えられます。

- 2 UPS の AC 入力プラグを電源コンセント（商用電源）から抜き、停電状態にする

### 参考

本ソフトウェアが停電を検出すると常駐アイコンが「入力電源異常」に変わります。

- 3 常駐アイコンが「入力電源異常」に変化したら、「待機時間」の設定値後（初期値 60 秒）に OS のシャットダウンが始まることを確認する

#### 初期設定

- ・待機時間：60 秒
- ・シャットダウンに必要な時間：180 秒
- ・UPS 自動停止：する

- 4 OSのシャットダウン開始から「シャットダウンに必要な時間」経過後（初期値 180 秒）、UPS の出力が停止することを確認する

**注意**

シャットダウンパラメータで「UPS 自動停止・しない」を選択した場合は、バッテリー残量が無くなるまで UPS の出力は停止しません。

**参考**

UPS が停止する（UPS が OFF になる）と、UPS 本体の「状態表示」や LCD が消灯します。

- 5 UPS の AC 入カプラグを電源コンセント（商用電源）に挿し、復電させる

**参考**

復電すると UPS が自動再起動（UPS が ON）します（工場出荷値）。

UPS 側で自動再起動「しない」設定にしている場合は、復電しても自動再起動しません。

**注意**

手でコンピュータの電源を入れる場合は、UPS が停止する前にコンピュータを起動させないよう注意してください。

☞P.83 「付-1-3 UPS の出力停止前に復電した場合」

以上でシャットダウンテストは終了です。

## 6 アンインストール（削除）

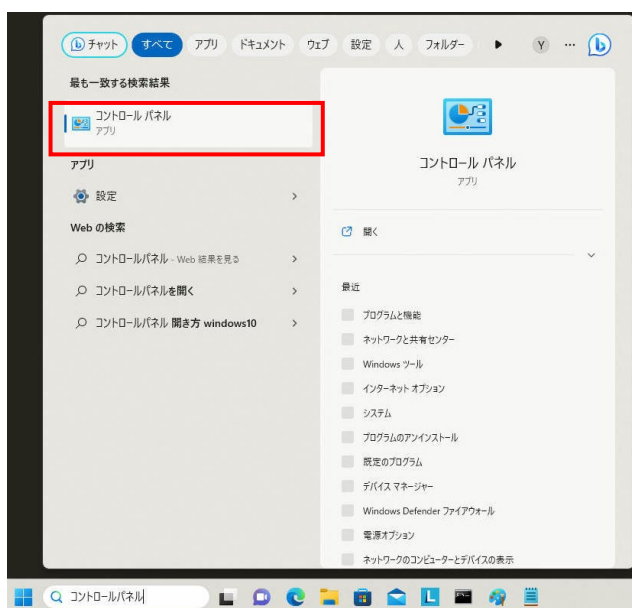
### 6-1 本ソフトウェアのアンインストール

本ソフトウェアのアンインストール（削除）手順を説明します。

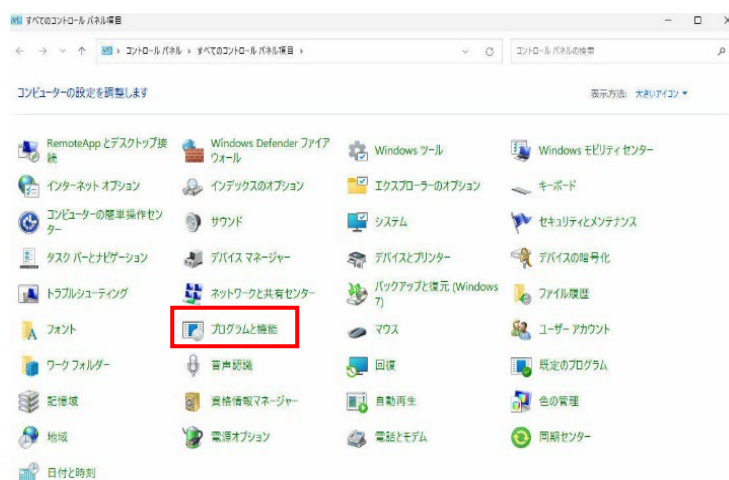
#### 参考

本ソフトウェアをアンインストールする時は、起動しているソフトウェアを停止してください。

#### 1 「コントロールパネル」を検索して表示させる

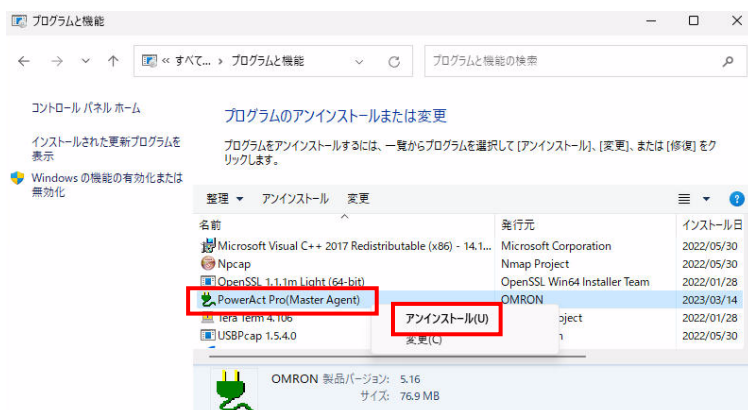


#### 2 「プログラムと機能」をクリックする



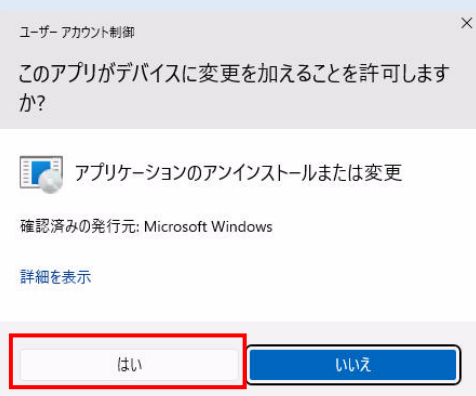


### 3 [PowerAct Pro(Master Agent)] を右クリックして [アンインストール(U)] を選択する

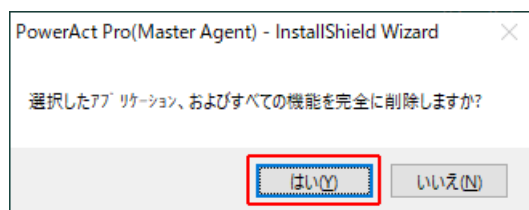


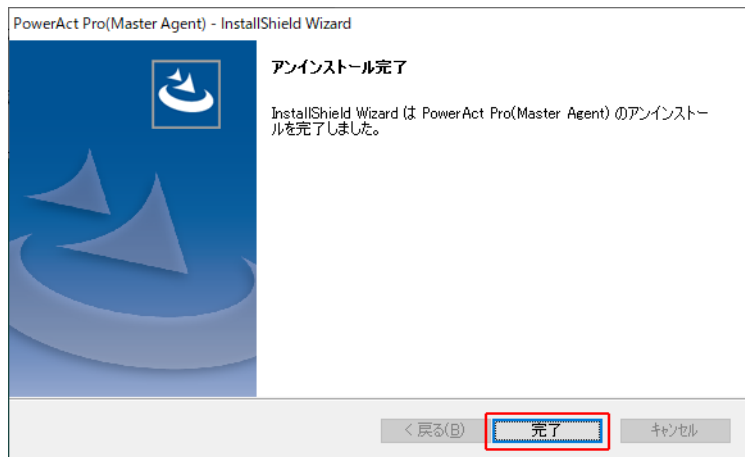
#### 参考

以下警告画面が出たら [はい] ボタンをクリックしてください。



### 4 [はい(Y)] ボタンをクリックする



**5** [完了] ボタンをクリックする**6** Windows11 を再起動する

以上で本ソフトウェアのアンインストールは終了です。

## 7 こんなときには

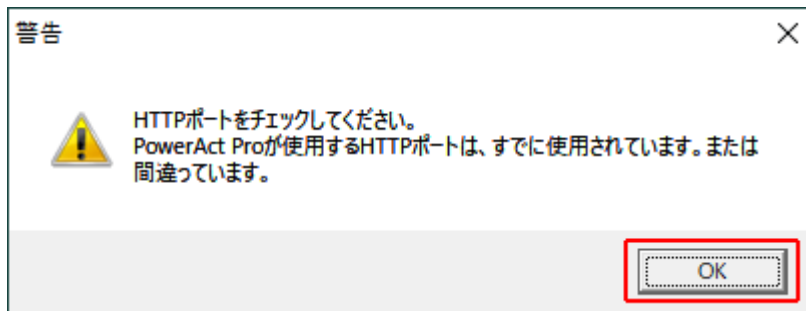
### 7-1 「HTTP ポートをチェック」の警告が出たら

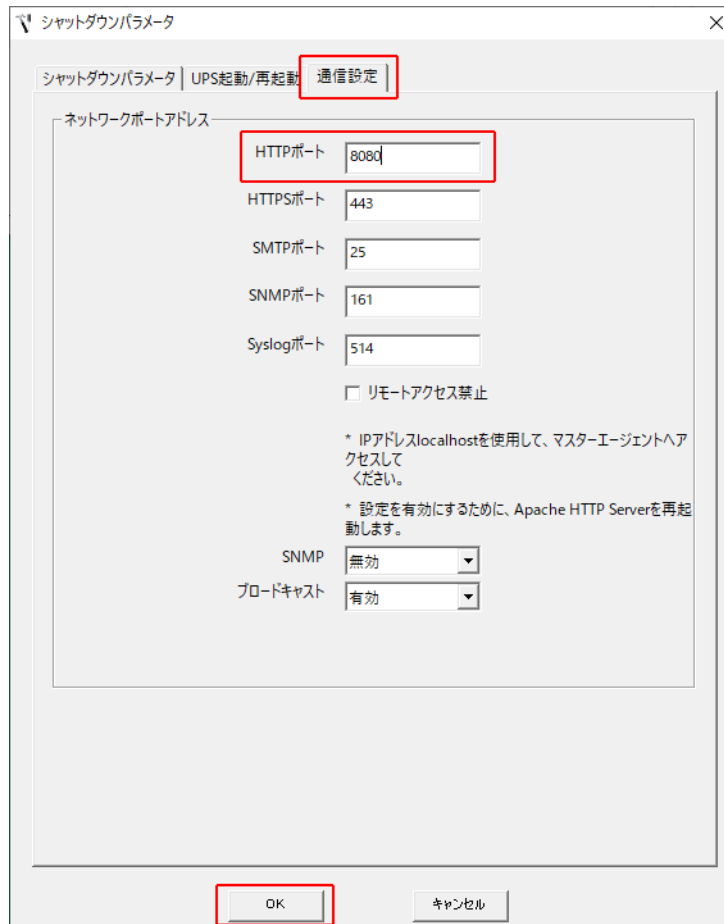
本ソフトウェアのインストール途中で「HTTP ポートをチェック」の警告画面が表示されることがあります。

この場合、本ソフトウェアで使用する HTTP ポートを別のプログラムで使用している状態です。別のプログラムの HTTP ポート番号と重複しないように IIS のポート番号を変更してください。

#### 7-1-1 本ソフトウェアのインストール途中でポート番号を変更する

- 1 [OK] ボタンをクリックし、警告画面を閉じる



**2** [通信設定] タブの「HTTP ポート」を変更し [OK] ボタンをクリックする**参考**

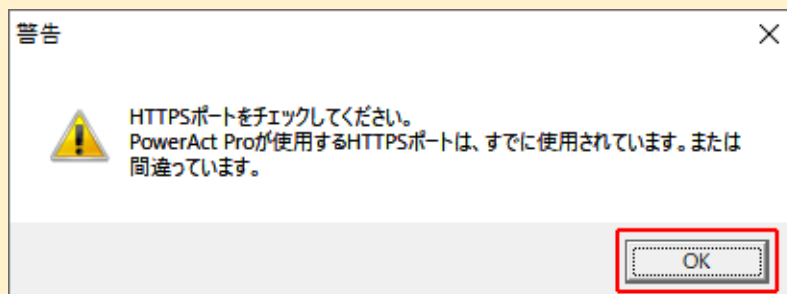
HTTP ポート番号の初期値 : 80

本例では HTTP ポートを 80 から 8080 に変更しています。

**注意**

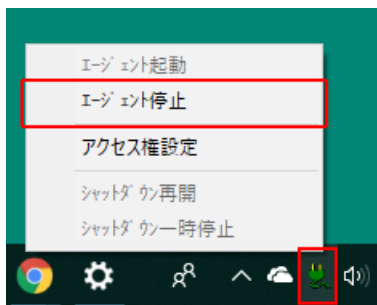
「SSL による暗号化通信を使用する」を選択した場合は、HTTPS ポート番号を変更してください。

HTTPS ポート番号の初期値 : 443

**3** IIS を選択している→P.20「手順 18」に続く

## 7-1-2 インストール完了後に HTTP ポート番号を変更する

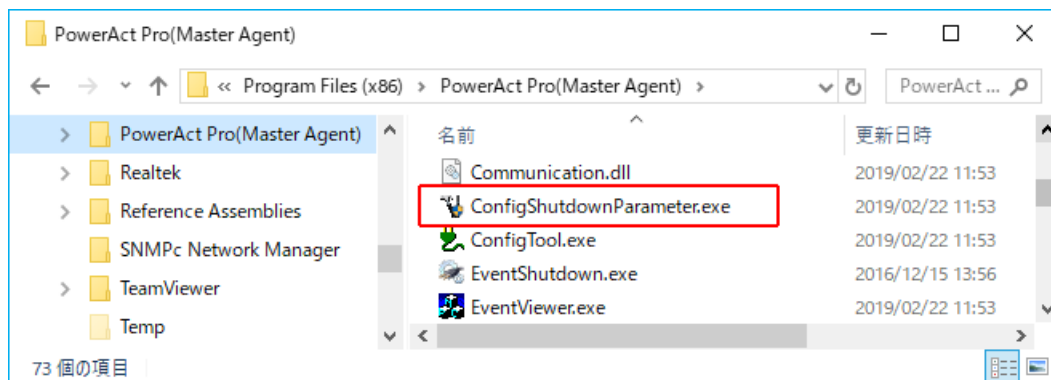
- 1 タスクトレイの常駐アイコンを右クリックし、[エージェント停止] を選択する



- 2 常駐アイコンに×が付くことを確認する



- 3 [PowerAct Pro(Master Agent)] フォルダ内の [ConfigShutdownParameter.exe] をダブルクリックする

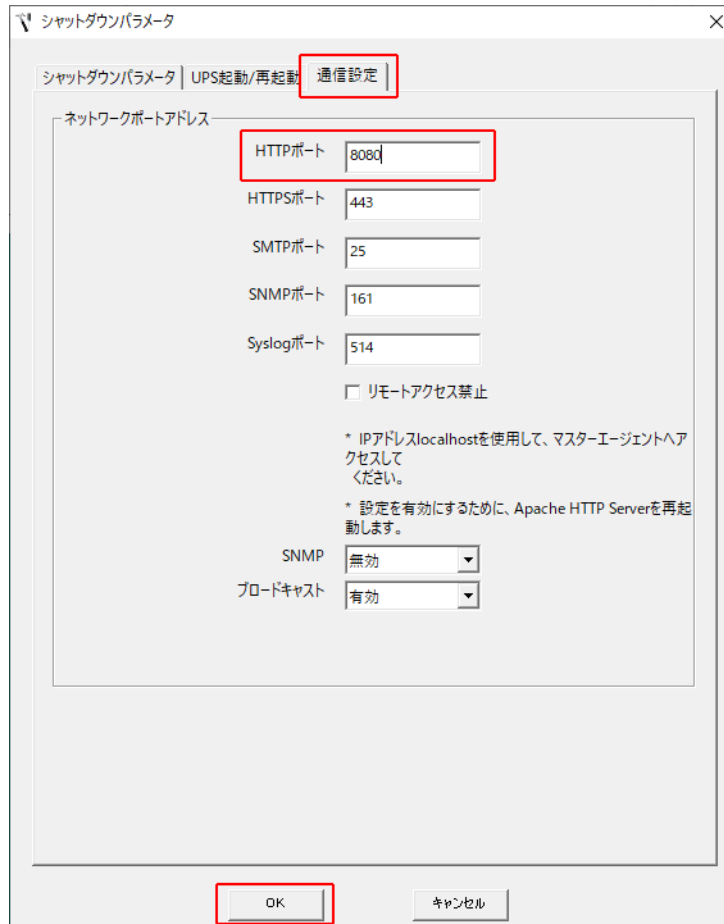


### 参考

本ソフトウェアのデフォルトのインストール先は以下の階層です。

C:¥Program Files(x86)¥ PowerAct Pro(Master Agent)

## 4 [通信設定] タブの「HTTP ポート」の番号を変更し [OK] ボタンをクリックする

**参考**

本例では 80 を 8080 に変更しています。

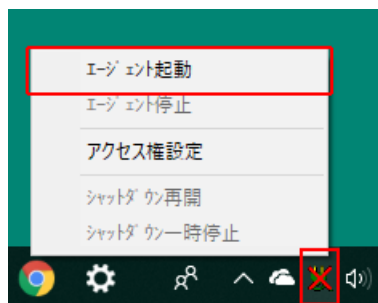
HTTP ポート番号の初期値 : 80

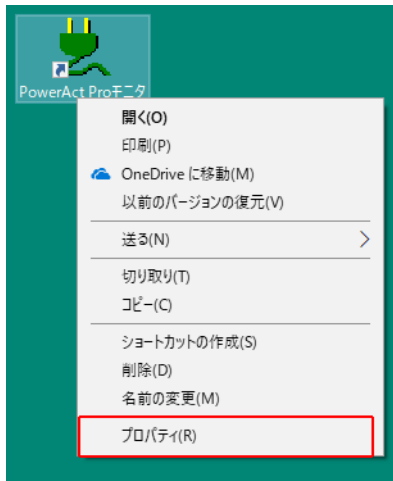
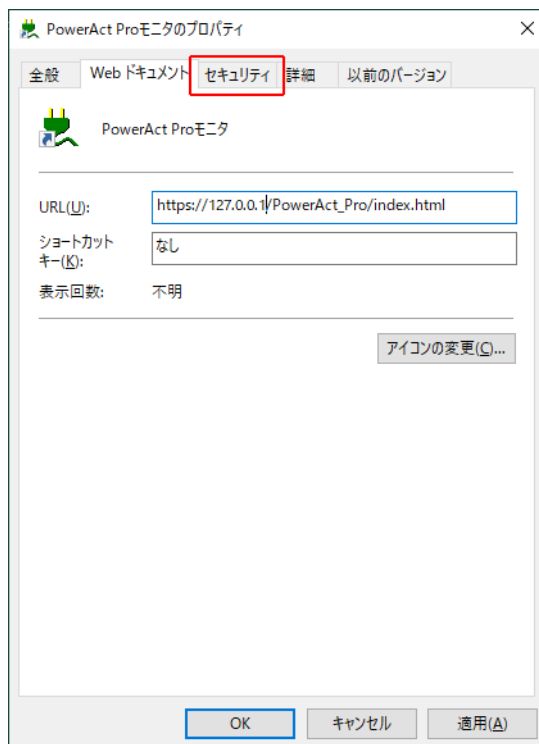
**注意**

「SSL による暗号化通信を使用する」を選択した場合は、HTTPS ポート番号を変更してください。

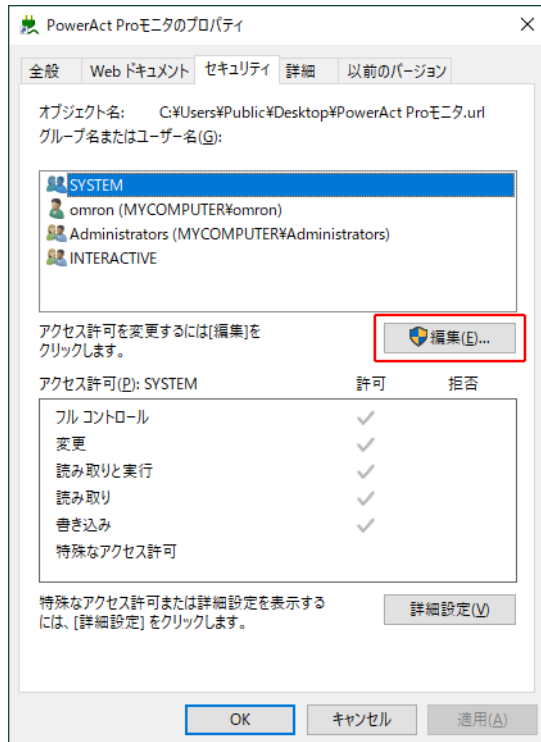
HTTPS ポート番号の初期値 : 443

## 5 常駐アイコンを右クリックし [エージェント起動] を選択する

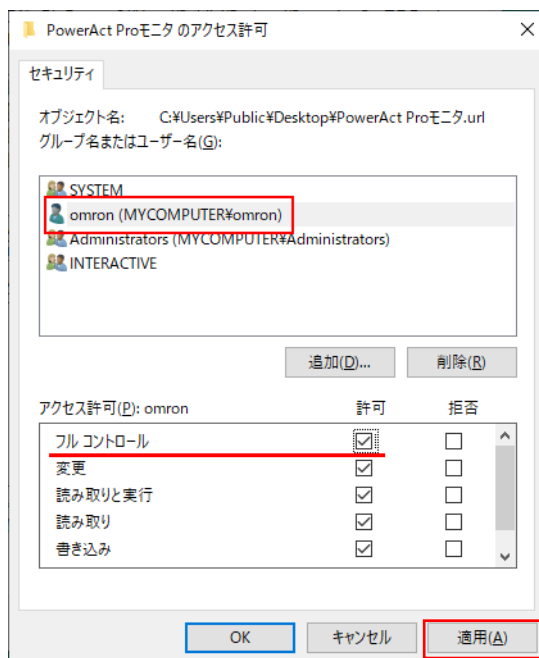


**6** 常駐アイコンの×が消えることを確認する**7** デスクトップの [PowerAct Pro モニタ] を右クリックし [プロパティ] を選択する**8** [セキュリティ] タブをクリックする

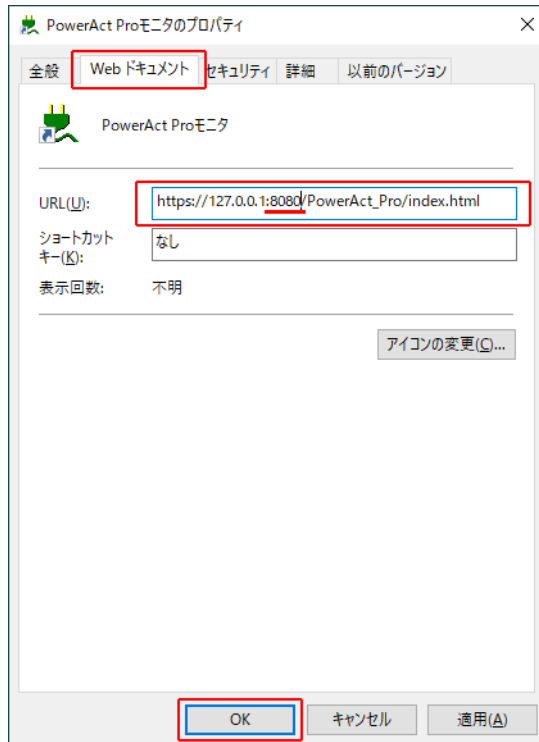
## 9 [編集(E)] ボタンをクリックする



- 10 「グループ名またはユーザー名(G):」欄でログインしているユーザー名をクリックし  
「アクセス許可(P):」欄の「フルコントロール」にチェック、[適用(A)] ボタンをクリックする





**11** [Web ドキュメント] タブの「URL(U):」欄でポート番号を修正し [OK] ボタンをクリックする**参考**

ポート番号は、手順 4 (P.54) で変更したものに修正してください。

例) ポート番号を 80 から 8080 に変更した場合

http://127.0.0.1:**80**/PowerAct\_Pro/

↓

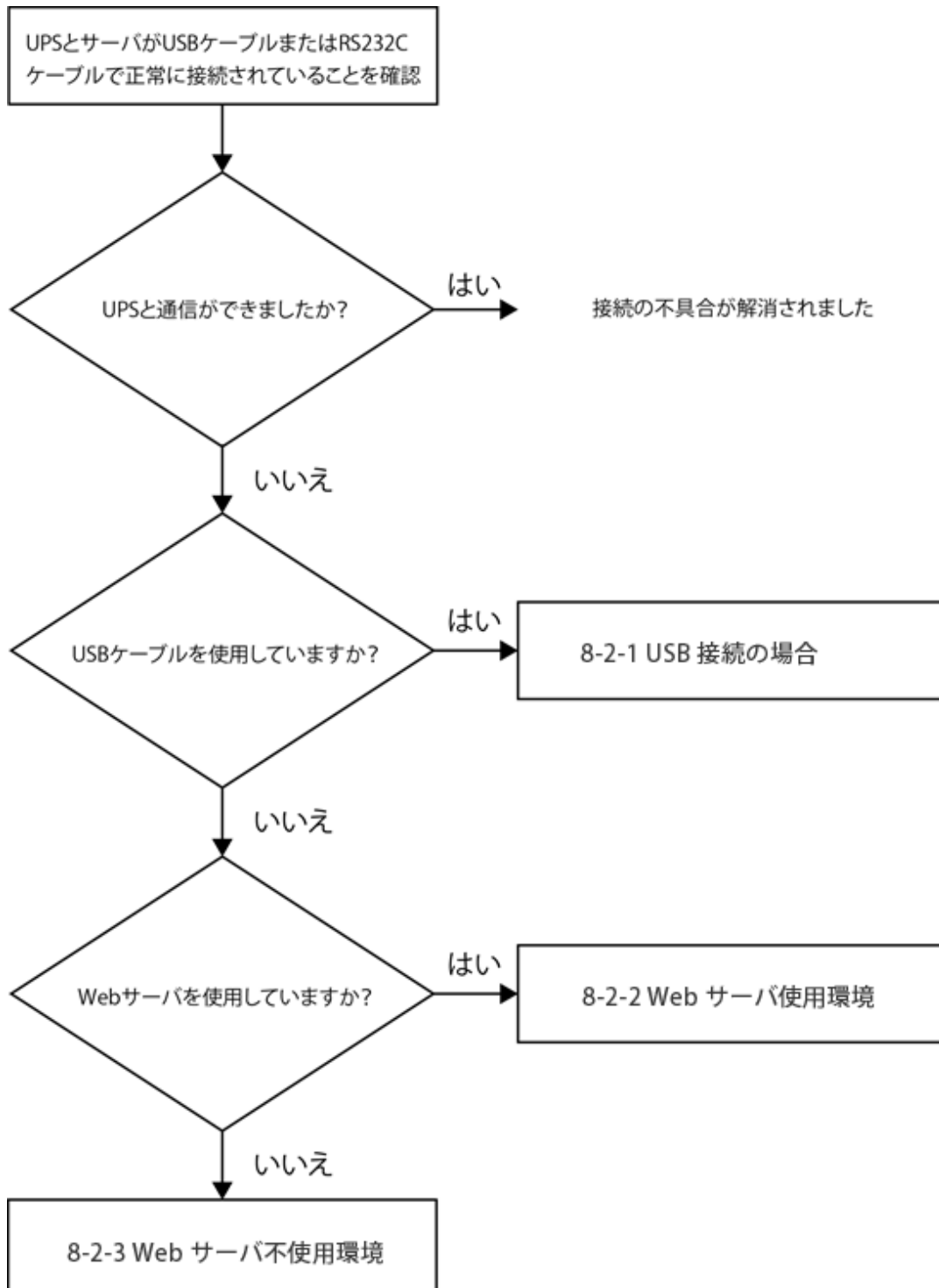
http://127.0.0.1:**8080**/PowerAct\_Pro/

以上で http ポート番号の変更は終了です。

## 7-2 UPSと通信ができない

本ソフトウェアは、USBポートまたはRS232Cポート（COMポート）経由でUPSと通信します。

以下のチャートを参考にして、本ソフトウェアとUPSの通信を確立してください。



### 7-2-1 USB 接続の場合

- 1 サーバから USB ケーブルを取り外す
- 2 USB ケーブルを再接続して、30 秒～1 分程度（UPS が再検出される時間）待つ

#### 参考

USB 通信が確立すると、常駐アイコンが「商用運転中」の表示になります。



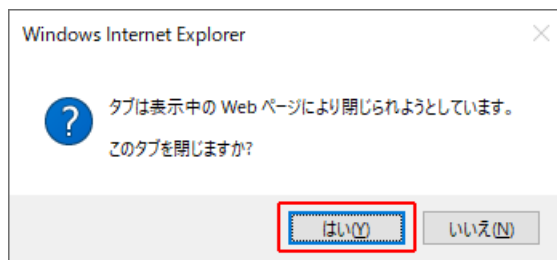
USB ケーブルを再接続しても通信が確立しない場合は、  
7-2-2 「Web サーバ使用環境」または  
P.63 「7-2-3 Web サーバ不使用環境に進んでください。

## 7-2-2 Web サーバ使用環境

- 1 デスクトップの [PowerAct Pro モニタ] アイコンをダブルクリックする



- 2 [[はい(Y)] ボタンをクリックする



- 3 本ソフトウェアをインストールしたコンピュータ名をクリックする

A screenshot of the OMRON web management interface. The top left shows the OMRON logo. The top right has a search bar for "手動エージェント検索" (Manual Agent Search) with a "設定" (Settings) button. Below the logo is a navigation menu with buttons for "システム" (System), "ログ" (Log), "UPS 設定" (UPS Settings), "手動操作" (Manual Operation), and "ヘルプ" (Help). On the left side, there is a sidebar menu with icons and labels: "環境設定" (Environment Settings), "スケジュール" (Schedule), "イベント情報" (Event Information), "イベントログ" (Event Log), "データログ" (Data Log), "終了アプリケーション情報" (Terminated Application Information), "エージェント 検索" (Agent Search), and "ヘルプ" (Help). The main content area shows a table with columns: "マスター/スレーブ グループ構成" (Master/Slave Group Configuration), "UPS 型式" (UPS Model), "UPS 状態" (UPS Status), "バッテリー状態" (Battery Status), and "通信ポート(通信状態)" (Communication Port (Communication Status)). The table contains two rows: "MYCOMPUTER" (highlighted with a red box) and "OMRON-1".

マスター/スレーブ グループ構成	UPS 型式	UPS 状態	バッテリー状態	通信ポート(通信状態)
MYCOMPUTER	BN100T	商用運転中	正常	USB1 (通信中)
OMRON-1				

- 4 「ログインID」に「Admin」、「パスワード」に本ソフトウェアのインストール時に設定したパスワードを入力し  
[設定] ボタンをクリックする

### 注意

「Admin」の「A」は必ず大文字で入力してください。大文字/小文字を区別します。

- 5 [環境設定] ボタンをクリックする

OMRON 手動エージェント検索:  検索

システム ログ UPS 設定 手動操作 ヘルプ

日時: 2019年03月18日 13:57:18 次回のバッテリー交換: 2020-03-18  
前回のバッテリー使用開始日(交換日): 2019年03月18日

**環境設定** (highlighted)

- スケジュール
- イベント情報
- イベントログ
- データログ
- 終了アプリケーション情報
- エージェント検索
- ヘルプ

UPS型式: BN100T  
 UPS状態: 商用運転中  
 出力コンセントA (制御なし): 出力中  
 出力コンセントB (制御あり): 出力中  
 出力コンセントC (制御あり): 出力中  
 バッテリー状態: 正常  
 増設バッテリー:

ブザー: ならさない  
 ファンクションテストステータス: しない  
 バッテリー自動テスト: する  
 UPSコールドスタート機能: しない  
 出力電圧/入力感度: 100V/標準感度  
 UPS自動再起動: する

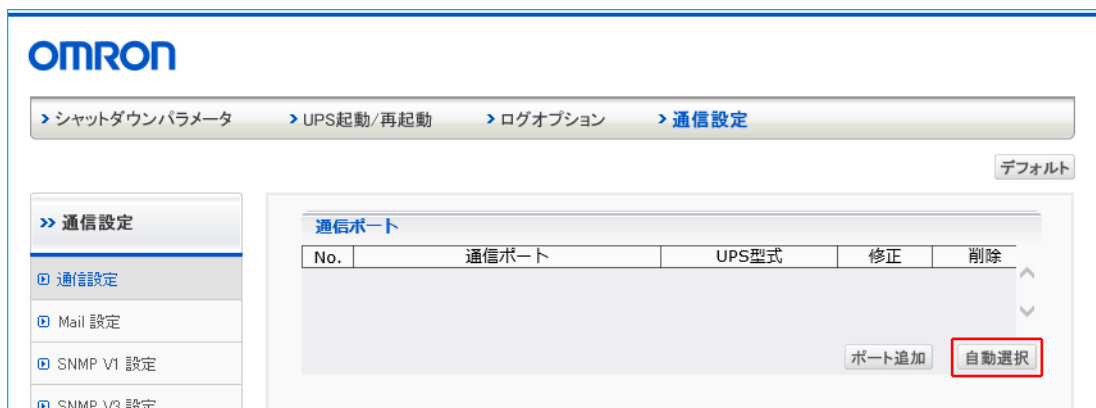
通信ポート: USB 1   
 テスト結果:

入力電圧:	40	60	80	100	120	140	101.7 V
出力電圧:	40	60	80	100	120	140	102.3 V
入力周波数:	40	45	50	55	60	65	49.9 Hz
出力周波数:	40	45	50	55	60	65	49.9 Hz
増設容量:	0	25	50	75	100	125	

## 6 [通信設定] をクリックする

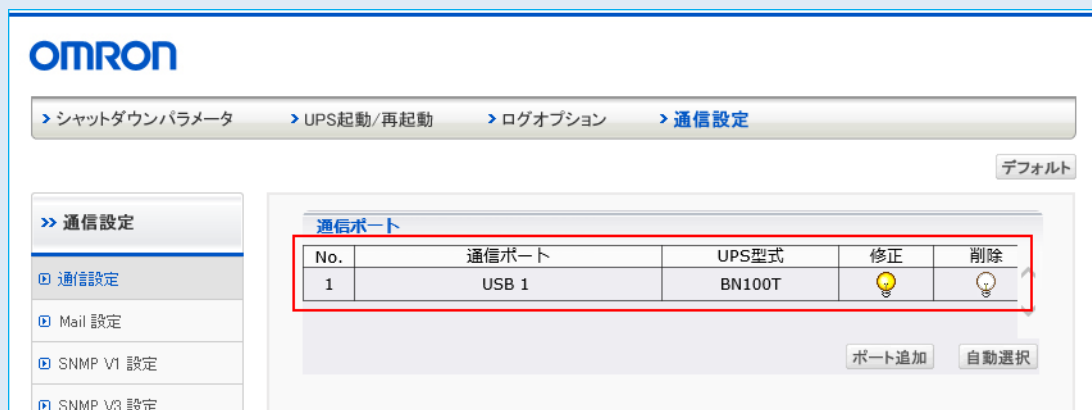


## 7 [自動選択] ボタンをクリックする



## 参考

UPS の型式が表示されれば通信が確立しています。



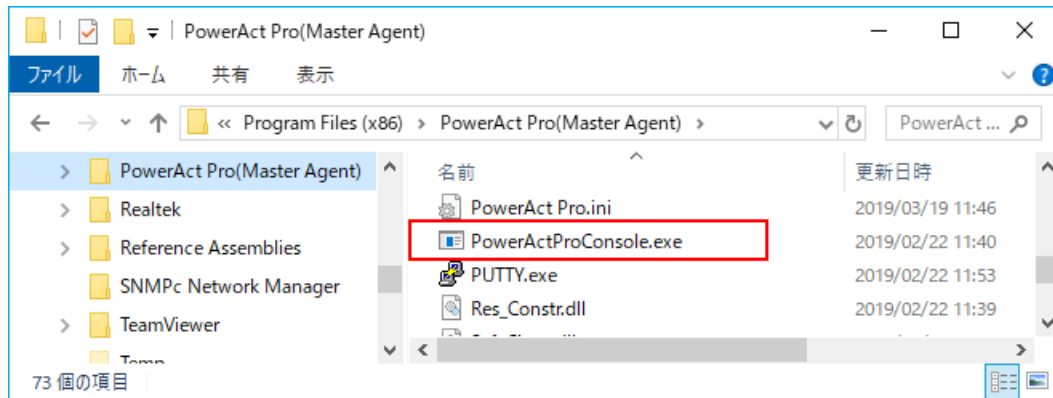
※通信ポートを「手動」で設定する場合は、[ポート追加] ボタンをクリックし、UPS を接続している COM ポートを選択してください。

## 8 「通信設定」、「PowerAct Pro モニタ」画面を閉じる

### 7-2-3 Web サーバ不使用環境

#### ■ 通信ポートを「自動」で設定する

- 1 [PowerAct Pro(Master Agent)] フォルダを開き、 [PowerActProConsole.exe] をダブルクリックする

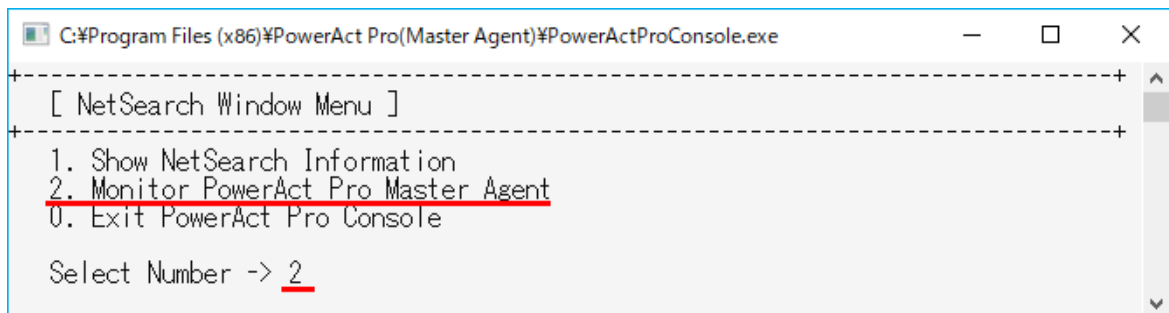


#### 参考

- ・本ソフトウェアのデフォルトのインストール先は以下の階層です。

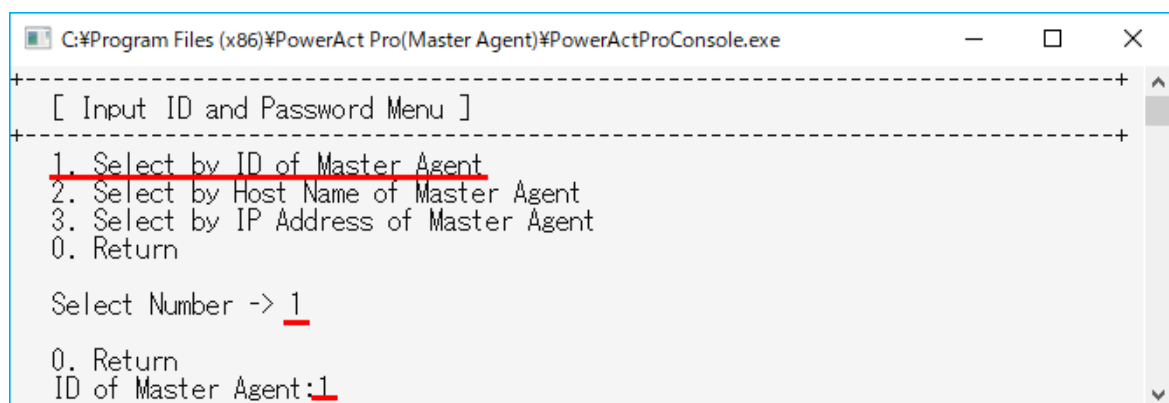
C:\Program Files(x86)\PowerAct Pro(Master Agent)

- 2 【2. Monitor PowerAct Pro Master Agent】を選択する（「2」を入力し「Enter」キーを押す）

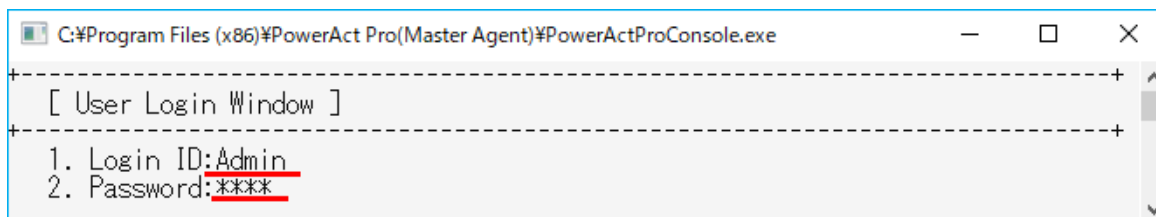


- 3 【1. Select by ID of Master Agent】を選択（「1」を入力し「Enter」キーを押す）、マスタ ID 番号の「1」を入力し「Enter」キーを押す

※ ローカルコンピュータの場合、マスタ ID 番号は「1」です。



## 4 本ソフトウェアのログイン ID とパスワードを入力し、「Enter」キーを押す



## 参考

- ・本ソフトウェアデフォルトのログイン ID は「Admin」です。
- ・大文字小文字を区別します。
- ・パスワードは本ソフトウェアのインストール途中に決めたパスワードです。

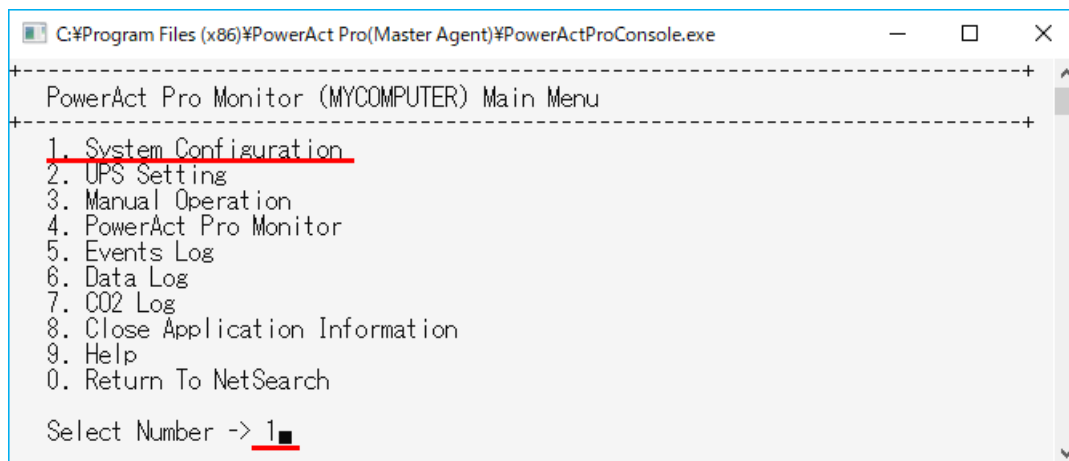
## 5 キーボードの「Q」キーを押す

```

=====PowerAct Pro Console Monitor=====
[PowerAct Pro Monitor (MYCOMPUTER/ Full Access)]
[Date And Time]: 2018-12-20 13:00:10
[Battery Use Date]: 2018-12-11 [Next Battery Replace Date]: 2019-02-09
-----[UPS Setting]-----
UPS Model: BN100T Buzzer Status: On
UPS Status: On Line Function Test Status: On
Output A: Output Start Battery Auto Test: On
Output B: Output Start UPS cold start status: Off
Output C: Output Start Input Sensitivity: 100V/Standard
Battery Status: Normal UPS Auto Reboot: On
Additional Battery Unit: Presumed Backup Time: 4670
-----[UPS Data]-----
Input Voltage: 101.3V Input Frequency: 49.9Hz
Output Voltage: 101.7V Output Frequency: 49.9Hz
Load Level: 0% Battery Capacity: 100%
Communication Port: USB1 Test Result:
-----[Next Shutdown Start / Next UPS Restart]-----
Next Shutdown Start: Next UPS Restart:
-----[Last Two Events]-----
2018-12-20 11:04:58 [Outlet stop delay time] is changed [MYCOMPUTER (Master)...
2018-12-20 10:59:53 [Select UPS Outlet] is changed. [MYCOMPUTER (Master) Outl...
=====
Key "R" To Refresh UPS Data, Key "A" To AutoLoad UPS Data / 10 Seconds
Key "Q" To Quit The Monitor, Key "C" To Change The Current UPS Monitor

```

## 6 【1. System Configuration】を選択する（「1」を入力し「Enter」キーを押す）





## 7 【1. Configuration】を選択する（「1」を入力し「Enter」キーを押す）

```

+-----+
[ "System" menu of PowerAct Pro Monitor(MYCOMPUTER) ]
+-----+
1. Configuration
2. Event
3. Schedule
0. Return

Select Number -> 1

```

## 8 【4. Communication Setting】を選択する（「4」を入力し「Enter」キーを押す）

```

+-----+
[ "Configuration" menu of PowerAct Pro Monitor(MYCOMPUTER) ]
+-----+
1. Shutdown Parameter
2. UPS Boot/Reboot
3. Log Option
4. Communication Setting
0. Return

Select Number -> 4

```

## 9 【1. Communication Basal Setting】を選択する（「1」を入力し「Enter」キーを押す）

```

+-----+
[ "Communication Setting" menu of PowerAct Pro Monitor(MYCOMPUTER) ]
+-----+
1. Communication Basal Setting
2. Mail Setting
3. SNMP V1 Setting
4. SNMP V3 Setting
0. Return

Select Number -> 1

```

## 10 【11. Communication Port Setting】を選択する（「11」を入力し「Enter」キーを押す）

```

+-----+
[ Communication Basal Setting of MYCOMPUTER(Master Agent) ]
+-----+
1. Remote Access:                Enable
2. HTTP Port:                    80
3. HTTPS Port:                   N/A
4. SMTP Port:                    25
5. SNMP Port:                    161
6. SysLog Port:                  514
7. SNMP Access:                  Enable
8. Broadcast Access:             Enable
9. Page Refresh Rate(Sec):       30
10. LogOff Time(Min):            30
11. Communication Port Setting
0. Return
*****
Select Number -> 11

```

**11** 【1.Auto】を選択する（「1」を入力し「Enter」キーを押す）

```
+-----+
| [ Communication Basal Setting of MYCOMPUTER(Master Agent) ] |
+-----+
| 11. Find UPS |
| 1. Auto |
| 2. Manual |
| 3. COM List |
| 0. Return |
| Select Number : 1 |
+-----+
```

**参考**

- ・「Communication Port List」に UPS が自動検出されるまで時間がかかることがあります。
- ・「UPS Model」欄に接続している UPS の型式が表示されれば、UPS と通信が確立された状態です  
以下の例では COM2 に BN100T を検出しています。

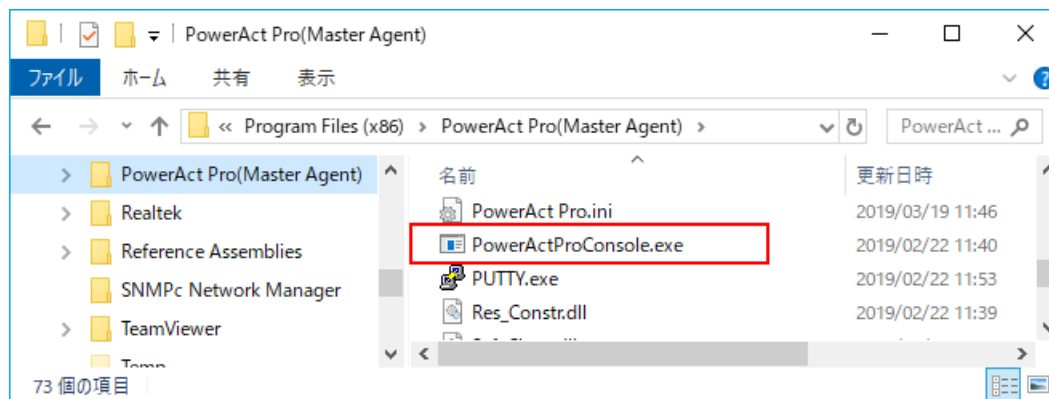
```
+-----+
| [ Communication Basal Setting of MYCOMPUTER(Master Agent) ] |
+-----+
| 11. Find UPS |
| 1. Auto |
| 2. Manual |
| 3. COM List |
| 0. Return |
| Select Number : 1 |
|
| Updating the setting values. Please wait. |
+-----+
| [ Communication Port List of MYCOMPUTER(Master Agent) ] |
+-----+
| No.      Communication Port      UPS Model |
| 1        COM2                    BN100T   |
+-----+
```

**12** 「Enter」キーを押し「手順 11」の画面に戻る**13** 「0」を入力後「Enter」キーを押し一つ前の画面に戻る

以後同様の操作で「PowerActProConsole」を閉じる

## ■ 通信ポートを「手動」で設定する

- 1 [PowerAct Pro(Master Agent)] フォルダを開き、[PowerActProConsole.exe] をダブルクリックする

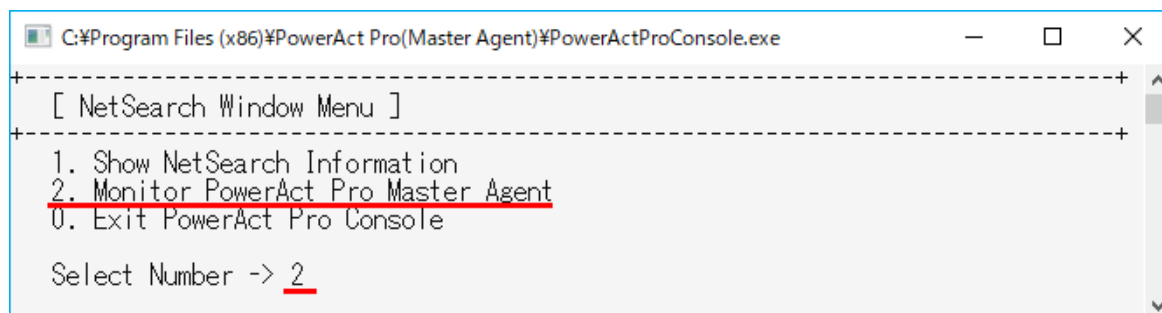


### 参考

・本ソフトウェアのデフォルトのインストール先は以下の階層です。

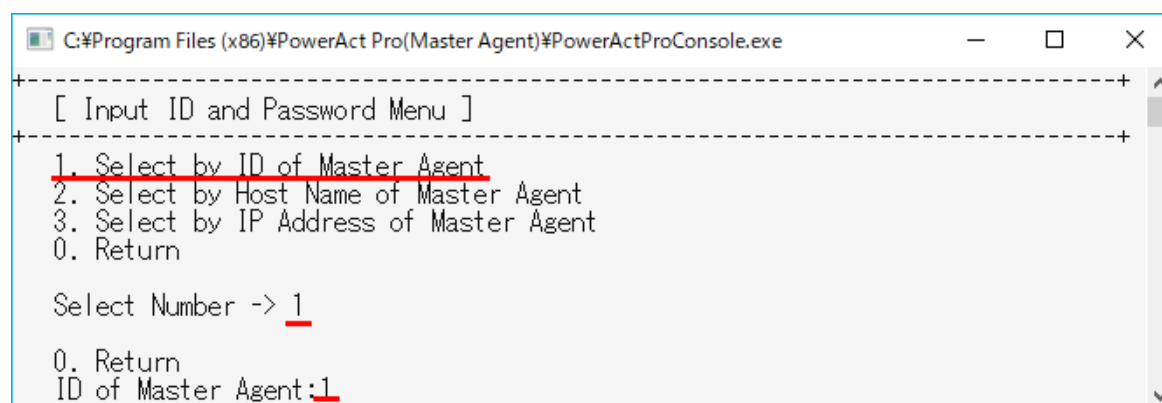
C:\Program Files(x86)\PowerAct Pro(Master Agent)

- 2 【2. Monitor PowerAct Pro Master Agent】を選択する（「2」を入力し「Enter」キーを押す）

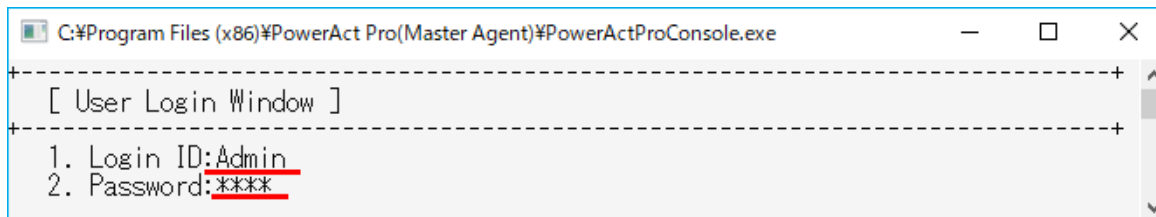


- 3 【1. Select by ID of Master Agent】を選択（「1」を入力し「Enter」キーを押す）、マスタ ID 番号の「1」を入力し「Enter」キーを押す

※ ローカルコンピュータの場合、マスタ ID 番号は「1」です。



## 4 本ソフトウェアのログイン ID とパスワードを入力し、「Enter」キーを押す



## 参考

- ・本ソフトウェアデフォルトのログイン ID は「Admin」です。
- ・大文字小文字を区別します。
- ・パスワードは本ソフトウェアのインストール途中に決めたパスワードです。

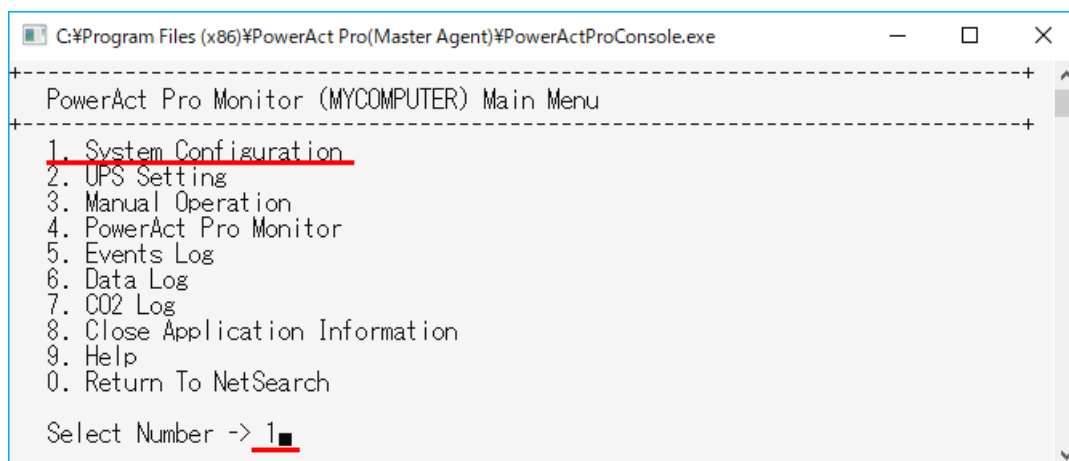
## 5 キーボードの「Q」キーを押す

```

=====PowerAct Pro Console Monitor=====
[PowerAct Pro Monitor (MYCOMPUTER/ Full Access)]
[Date And Time]: 2018-12-20 13:00:10
[Battery Use Date]: 2018-12-11 [Next Battery Replace Date]: 2019-02-09
-----[UPS Setting]-----
UPS Model: BN100T Buzzer Status: On
UPS Status: On Line Function Test Status: On
Output A: Output Start Battery Auto Test: On
Output B: Output Start UPS cold start status: Off
Output C: Output Start Input Sensitivity: 100V/Standard
Battery Status: Normal UPS Auto Reboot: On
Additional Battery Unit: Presumed Backup Time: 4670
-----[UPS Data]-----
Input Voltage: 101.3V Input Frequency: 49.9Hz
Output Voltage: 101.7V Output Frequency: 49.9Hz
Load Level: 0% Battery Capacity: 100%
Communication Port: USB1 Test Result:
-----[Next Shutdown Start / Next UPS Restart]-----
Next Shutdown Start: Next UPS Restart:
-----[Last Two Events]-----
2018-12-20 11:04:58 [Outlet stop delay time] is changed [MYCOMPUTER (Master)...
2018-12-20 10:59:53 [Select UPS Outlet] is changed. [MYCOMPUTER (Master) Outl...
=====
Key "R" To Refresh UPS Data, Key "A" To AutoLoad UPS Data / 10 Seconds
Key "Q" To Quit The Monitor, Key "C" To Change The Current UPS Monitor

```

## 6 【1. System Configuration】を選択する（「1」を入力し「Enter」キーを押す）



## 7 【1. Configuration】を選択する（「1」を入力し「Enter」キーを押す）

```

+-----+
| [ "System" menu of PowerAct Pro Monitor(MYCOMPUTER) ] |
+-----+
| 1. Configuration |
| 2. Event |
| 3. Schedule |
| 0. Return |
| |
| Select Number -> 1 |
+-----+

```

## 8 【4. Communication Setting】を選択する（「4」を入力し「Enter」キーを押す）

```

+-----+
| [ "Configuration" menu of PowerAct Pro Monitor(MYCOMPUTER) ] |
+-----+
| 1. Shutdown Parameter |
| 2. UPS Boot/Reboot |
| 3. Log Option |
| 4. Communication Setting |
| 0. Return |
| |
| Select Number -> 4 |
+-----+

```

## 9 【1. Communication Basal Setting】を選択する（「1」を入力し「Enter」キーを押す）

```

+-----+
| [ "Communication Setting" menu of PowerAct Pro Monitor(MYCOMPUTER) ] |
+-----+
| 1. Communication Basal Setting |
| 2. Mail Setting |
| 3. SNMP V1 Setting |
| 4. SNMP V3 Setting |
| 0. Return |
| |
| Select Number -> 1 |
+-----+

```

## 10 【11. Communication Port Setting】を選択する（「11」を入力し「Enter」キーを押す）

```

+-----+
| [ Communication Basal Setting of MYCOMPUTER(Master Agent) ] |
+-----+
| 1. Remote Access: Enable |
| 2. HTTP Port: 80 |
| 3. HTTPS Port: N/A |
| 4. SMTP Port: 25 |
| 5. SNMP Port: 161 |
| 6. SysLog Port: 514 |
| 7. SNMP Access: Enable |
| 8. Broadcast Access: Enable |
| 9. Page Refresh Rate(Sec): 30 |
| 10. LogOff Time(Min): 30 |
| 11. Communication Port Setting |
| 0. Return |
|*****|
| Select Number -> 11 |
+-----+

```

- 11 【2. Manual】を選択する（「2」を入力し「Enter」キーを押す）

```
+-----+
| [ Communication Basal Setting of MYCOMPUTER(Master Agent) ] |
+-----+
| 11. Find UPS |
| 1. Auto |
| 2. Manual |
| 3. COM List |
| 0. Return |
| Select Number : 2 |
+-----+
```

- 12 【2. Add】を選択する（「2」を入力し「Enter」キーを押す）

```
+-----+
| [ Communication Basal Setting of MYCOMPUTER(Master Agent) ] |
+-----+
| 1. COM List |
| 2. Add |
| 3. Modify |
| 4. Remove |
| 0. Return |
| Select Number -> 2 |
+-----+
```

- 13 コンピュータのCOMポートがリスト表示されたら、UPSを接続しているポートを選択する（「1」を入力し「Enter」キーを押す）

```
+-----+
| [ Communication Port Add Window of MYCOMPUTER(Master Agent) ] |
+-----+
| 1.COM5 |
| |
| 0. Return |
| 1. Select The Communication Port Number: 1 |
| Updating the setting values. Please wait. |
+-----+
```

#### 参考

「2.Add」を選択すると、コンピュータのシリアルポートがリスト表示されます。本例ではシリアルポートがCOM5のみのため、「1」のCOM5を選択しています。

- 14 【1.COM List】を選択する（「1」を入力し「Enter」キーを押す）

```
+-----+
| [ Communication Basal Setting of MYCOMPUTER(Master Agent) ] |
+-----+
| 1. COM List |
| 2. Add      |
| 3. Modify   |
| 4. Remove   |
| 0. Return   |
|             |
| Select Number -> 1 |
+-----+
```

### 参考

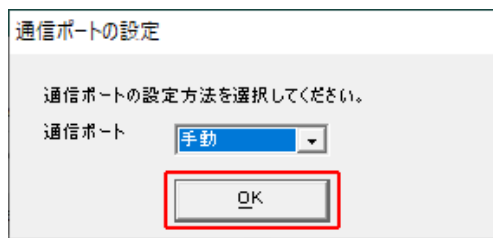
指定した COM ポートに UPS の型式が表示されれば通信が確立した状態です。

```
+-----+
| [ Communication Basal Setting of MYCOMPUTER(Master Agent) ] |
+-----+
| 1. COM List |
| 2. Add      |
| 3. Modify   |
| 4. Remove   |
| 0. Return   |
|             |
| Select Number -> 1 |
+-----+
| [ Communication Port List of MYCOMPUTER(Master Agent) ] |
+-----+
| No.   | Communication Port | UPS Model |
| 1     | COM5                | BU150R   |
+-----+
```

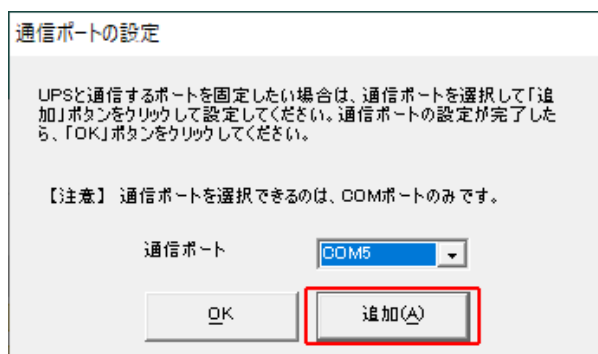
- 15 「Enter」キーを押し手順 11 の画面に戻る
- 16 「0」を入力し「Enter」キーを押して、一つ前の画面に戻る  
以後同様の操作で「PowerActProConsole」を終了する

## 7-2-4 「通信ポートの設定」で「手動」を選択する場合

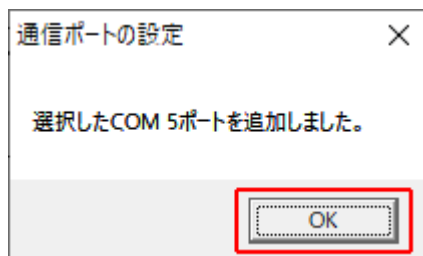
- 1 「手動」を選択して、[OK] ボタンをクリックする



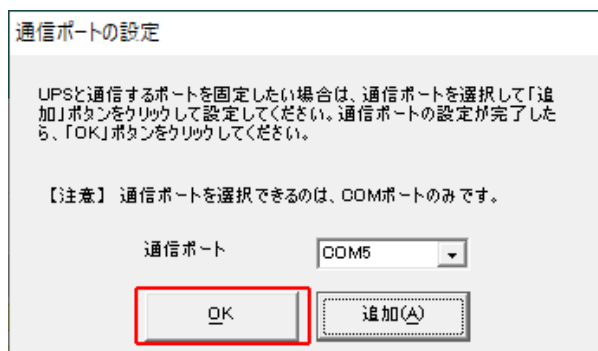
- 2 UPS を接続している COM ポートを選択して、[追加(A)] ボタンをクリックする



- 3 [OK] ボタンをクリックする

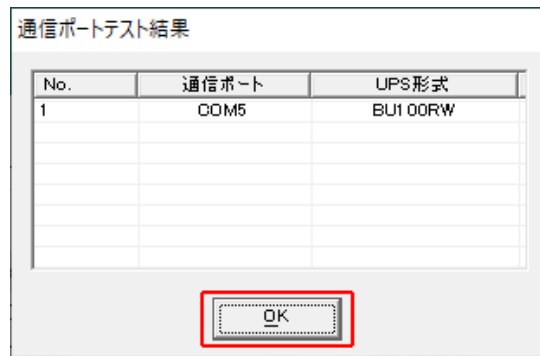


- 4 [OK] ボタンをクリックする





- 5 選択した COM ポートの通信結果を確認して、[OK] ボタンをクリックする



- 6 本ソフトウェアのインストール手順に戻る

IIS を使用する場合	P.18 手順 15 参照
Web サーバを使用しない場合	P.34 手順 14 参照

## 7-3 復電時にサーバを自動起動させる

### 7-3-1 UPS とコンピュータの自動起動設定

入力電源異常でUPSが自動シャットダウンした後、復電時にコンピュータを自動起動させる場合は、UPSの設定とコンピュータのBIOSの設定をしてください。

#### 1 復電時にUPSを自動起動する設定（工場出荷時設定）にする

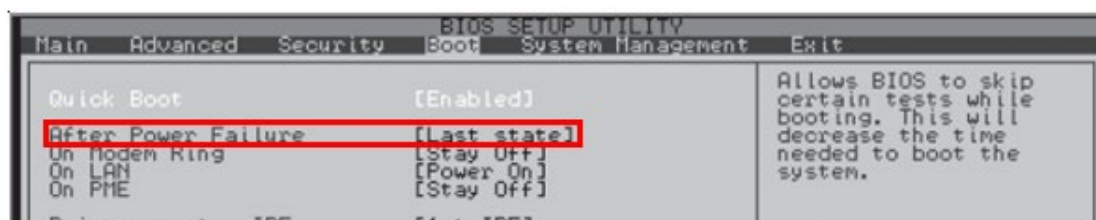
##### 参考

- ・UPSの設定スイッチで設定する機種は、「2番」を「OFF」にします。  
設定スイッチを変更した後はUPSの再起動が必要です。  
UPSの再起動方法等、設定の詳細は各UPSの取扱説明書をご確認ください。
- ・UPSのLCDメニューで設定する機種の場合、「セッテイ」→「キドウセッテイ」→「ジドウサイキドウ」で「ユウコウ」にチェックを入れます。

#### 2 コンピュータのBIOS設定を「復電時に自動起動する」設定にする

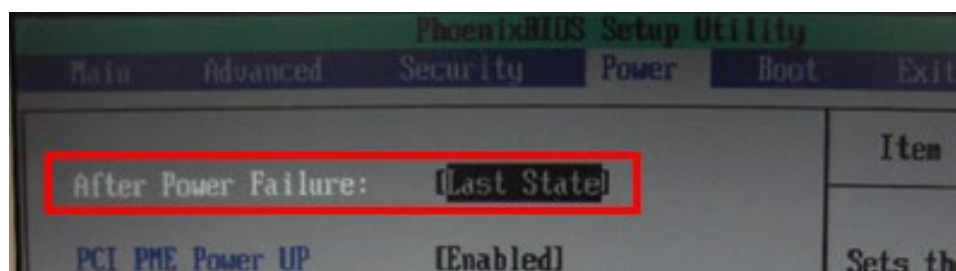
- ・NEC (Express5800)

[Boot] → [After Power Failure] → [Power On]



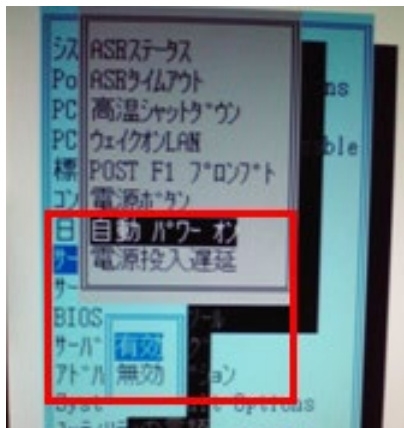
- ・HP (ProLiant DL145)

[Power] → [After Power Failure] → [Power On]



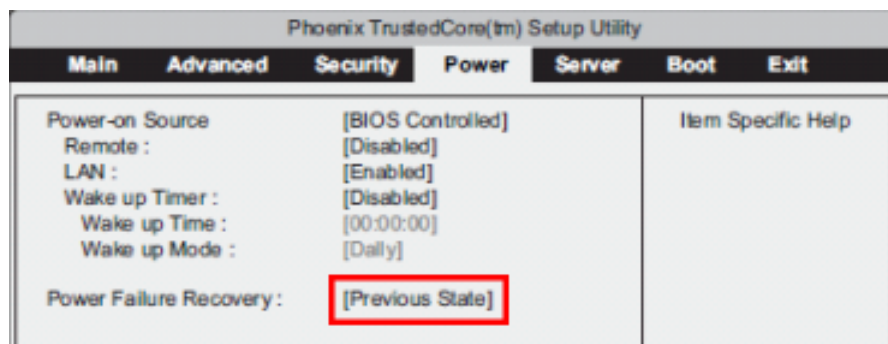
- ・ HP (ProLiant DL DL360G6)

[サーバアベイラビリティ] → [自動パワーオン] → [有効]



- ・ 富士通 (PRIMERGY RX100 S5)

[Power] → [Power Failure Recovery] → [Always On]



- ・ 日立 (HA8000)

BIOS セットアップメニューで「AC 入力でシステム装置を起動させる」に設定にする

#### 参考

BIOS 設定の詳細は、各コンピュータの取扱説明書をご確認ください。

### 7-3-2 UPS 停止前に復電した場合にコンピュータが自動起動しない

OS がシャットダウンを開始した後、UPS が出力停止する前に復電した場合、UPS は出力停止した直後に自動起動するため、コンピュータへの給電を停止している時間が短くなります。

この給電停止時間が短いことが原因でコンピュータが起動しない可能性がありますので、「UPS 起動遅延時間」で給電停止時間を延ばして、コンピュータが自動起動するか確認してください。

#### 参考

コンピュータは入力電源の停止時間が短いと内部に蓄積された電力が抜けきらず、入力電源が OFF になったことを検出できないことがあります。

コンピュータ内部に蓄積された電力が完全に抜けきる時間はコンピュータ毎に異なりますので、使用している機種に合わせて「UPS 起動遅延時間」を調節してください。

## ■ Web サーバ使用環境

### 1 [PowerAct Pro モニタ] にログインし [環境設定] を開く

The screenshot shows the OMRON PowerAct Pro monitoring interface. The '環境設定' (Environment Settings) menu item is highlighted with a red box. The main display shows system status, including UPS model (BN100T), status (Commercial Operation), and various output and input parameters with progress bars and numerical values.

項目	値	単位
入力電圧	101.7	V
出力電圧	102.3	V
入力周波数	49.9	Hz
出力周波数	49.9	Hz

#### 参考

ログイン手順は P.60 「7-2-2 Web サーバ使用環境」をご確認ください。

- 2 [UPS 起動/再起動] の「UPS 起動遅延時間」を延ばし、[設定] ボタンをクリックする

OMRON

> シャットダウンパラメータ > **UPS 起動/再起動** > ログオプション > 通信設定

デフォルト

>> UPS 起動/再起動

- UPS再起動設定
- Ping監視設定

**UPS再起動設定**

UPS自動再起動

UPS起動遅延時間  秒

バッテリー容量

**UPS起動時の出力開始遅延時間**

出力開始遅延コマンド送信

出力コンセントA (制御なし)  秒

出力コンセントB (制御あり)  秒

出力コンセントC (制御あり)  秒

**UPSコールドスタート**

UPSコールドスタート機能

- 3 [キャンセル] ボタンで「UPS 起動/再起動」画面を閉じる

- 4 [システム] → [ログオフ] で [PowerAct Pro モニタ] を閉じる

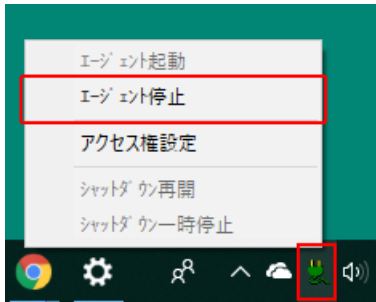
OMRON

手動エージェント検索:

システム	ログ	UPS 設定	手動操作	ヘルプ
エージェント自動検索 環境設定 イベント情報 スケジュール <b>ログオフ</b>	43:10 換日): 2017年03月18日	次回のバッテリー交換: 2021-03-19		
スケジュール	UPS型式: BN100T UPS状態: 商用運転中 出力コンセントA (制御なし): 出力中 出力コンセントB (制御あり): 出力中	ブザー: ならさない ファンクションテストステータス: しない バッテリー自動テスト: する UPSコールドスタート機能: しない 出力電圧/入力感度: 100V/標準感度		

## ■ Web サーバ不使用環境

- 1 タスクトレイの常駐アイコンを右クリックし [エージェント停止] を選択する



- 2 常駐アイコンに×が付くことを確認する



- 3 デスクトップの [シャットダウンパラメータ設定] をダブルクリックする



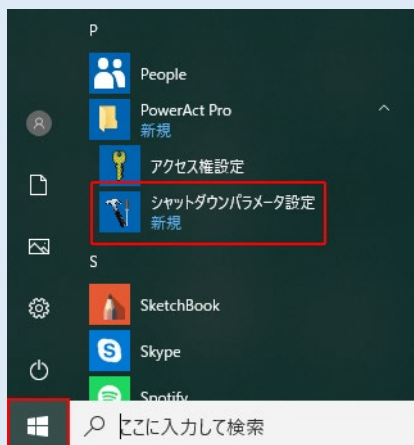
### 注意

[シャットダウンパラメータ設定] で設定を変更する場合は、必ずエージェントを停止してください。

### 参考

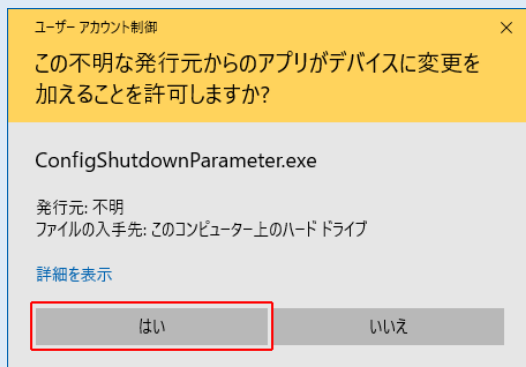
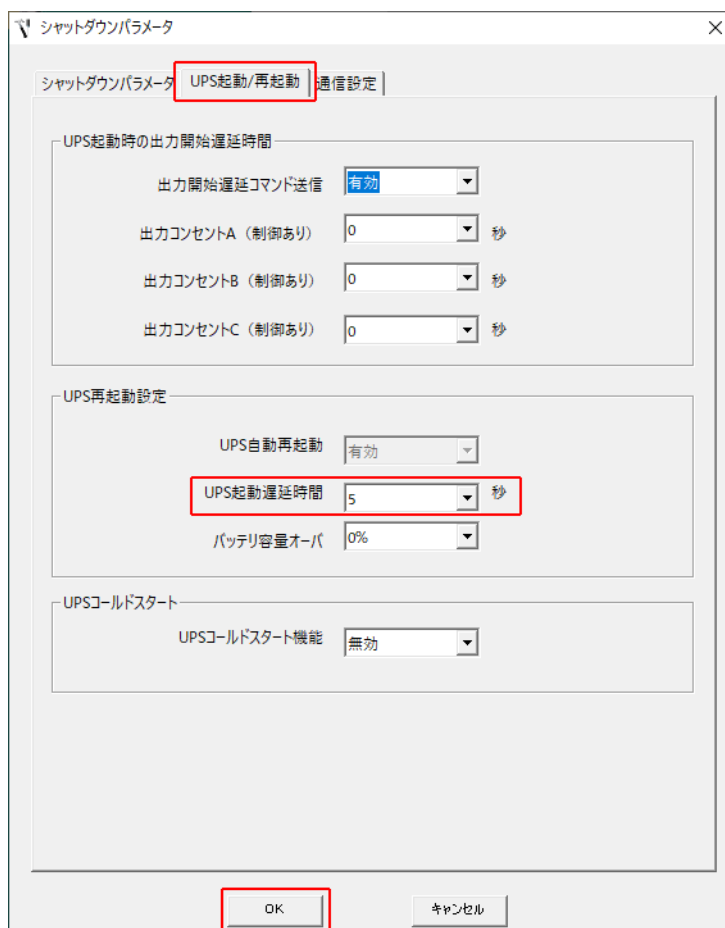
「シャットダウンパラメータ設定」画面は、「スタート」からも開くことができます。

「PowerAct Pro」 → 「シャットダウンパラメータ設定」

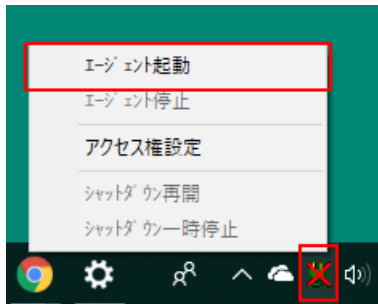


**参考**

「シャットダウンパラメータ設定」をダブルクリックして以下警告画面が出たら [はい] ボタンをクリックしてください。

**4** [UPS 起動/再起動] タブで「UPS 起動遅延時間」を変更し [OK] ボタンをクリックする

- 5 常駐アイコンを右クリックし [エージェント起動] をクリックする



- 6 常駐アイコンの×が消えることを確認する





# 付 録

## 付-1 シャットダウン動作シーケンス

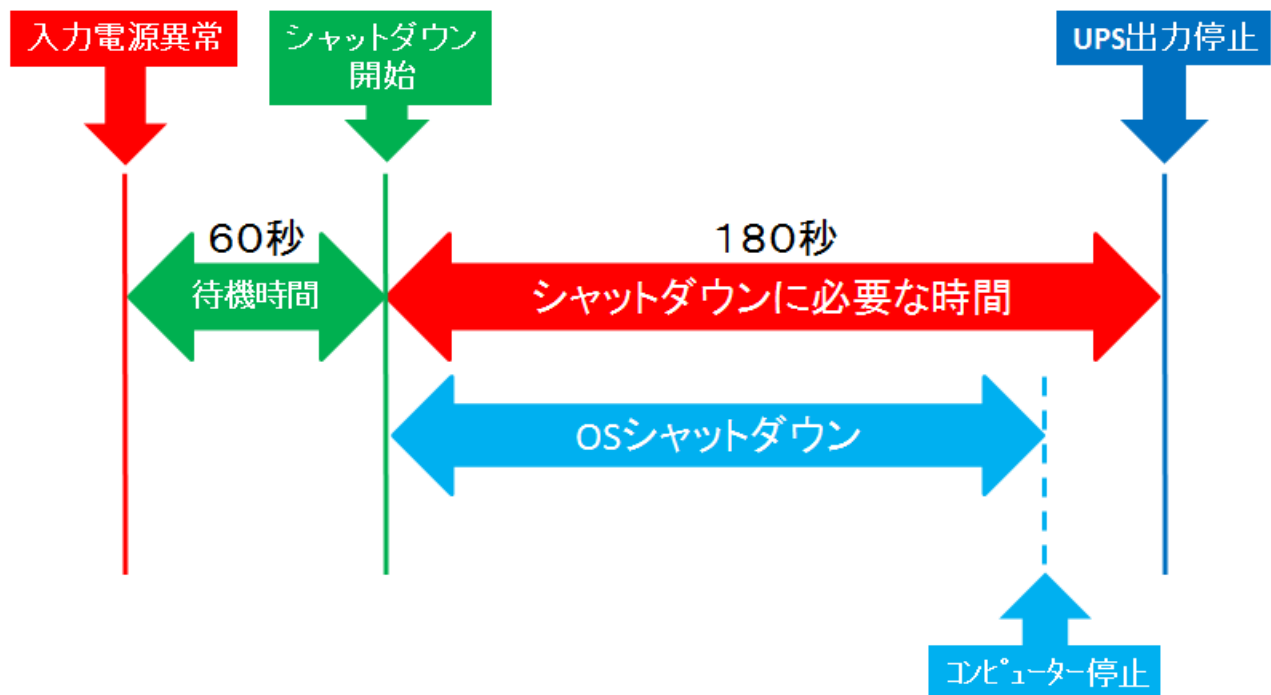
### 付-1-1 初期設定値の動作シーケンス

初期設定

- ・待機時間：60 秒
- ・シャットダウンに必要な時間：180 秒
- ・UPS 自動停止：する

本ソフトウェアが入力電源異常を検出してから約 60 秒後に OS のシャットダウンが開始されます。

OS のシャットダウン開始から約 180 秒後に UPS が出力停止します。



#### 参考

初期値では本ソフトウェアが入力電源異常を検出してから UPS が出力停止するまで約 240 秒かかります。

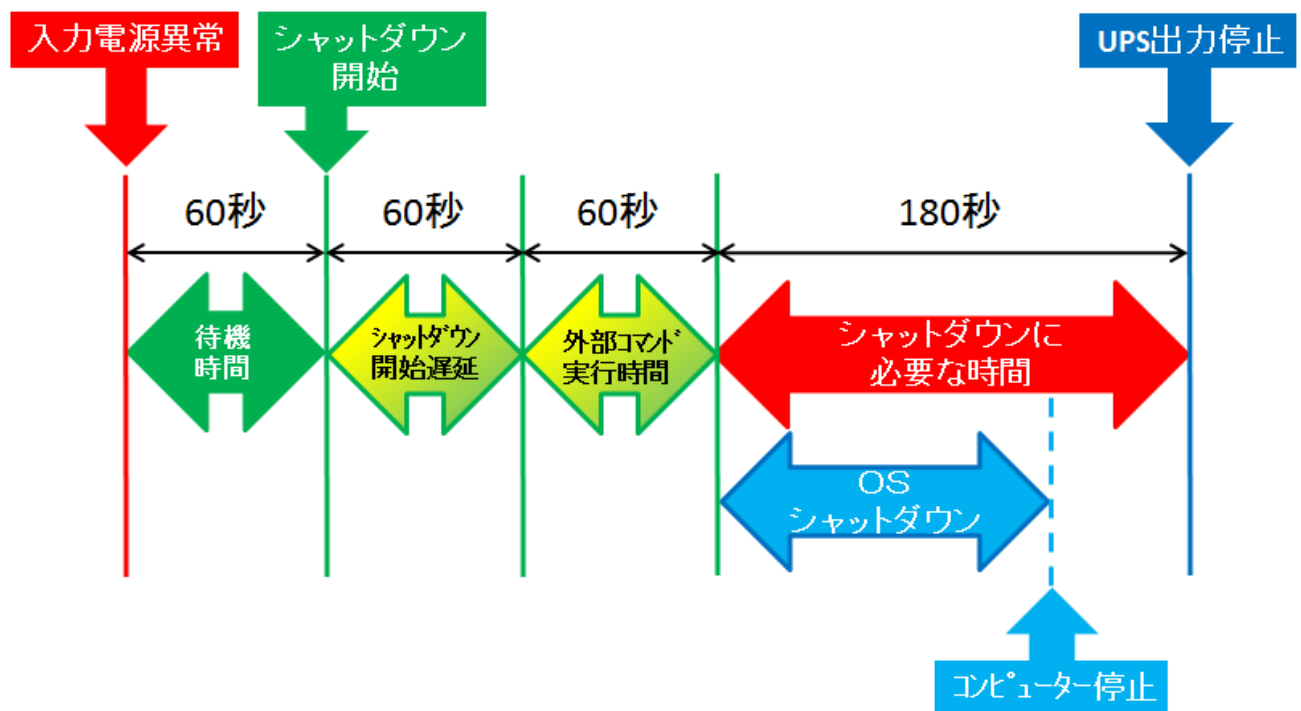
## 付-1-2 応用設定した場合の動作シーケンス

## 設定例

- ・ 待機時間：60 秒
- ・ **シャットダウン開始遅延：60 秒**
- ・ **外部コマンド実行時間：60 秒**
- ・ シャットダウンに必要な時間：180 秒
- ・ UPS 自動停止：する

「シャットダウン開始遅延」と「外部コマンド実行時間」の設定がそれぞれ「60 秒」の場合、入力電源異常の検出から約 180 秒後に OS のシャットダウンが開始されます。

OS のシャットダウン開始から約 180 秒後に UPS が出力停止します。



## 参考

本設定では本ソフトウェアが入力電源異常を検出してから UPS が出力停止するまで約 360 秒かかります。

「シャットダウン開始遅延時間」、「外部コマンド実行時間」、「シャットダウンに必要な時間」の合計は、出力コンセント制御機能のある UPS で最大 1800 秒、出力コンセント制御機能のない UPS で最大 600 秒です。

出力コンセント制御機能のある UPS は以下の通りです。

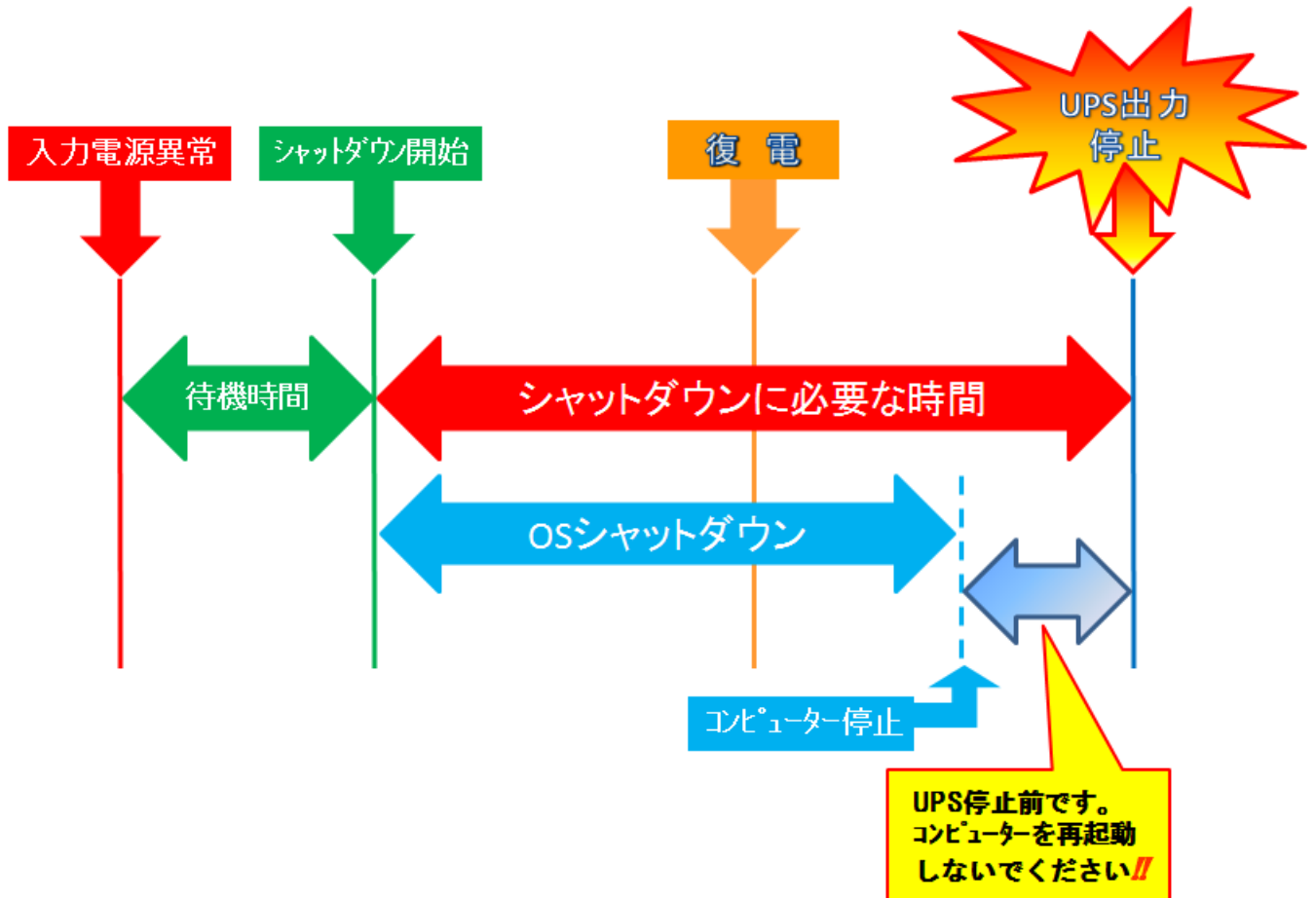
- ・ BU3002R
- ・ BU1002SW/BU3002SW
- ・ BU75RW/BU100RW/BU200RW/BU300RW
- ・ BU150R
- ・ BN100T/BN150T/BN220T/BN300T
- ・ BN75R/BN150R/BN300R
- ・ BV55REM/BV55RE

### 付-1-3 UPS の出力停止前に復電した場合

UPS が「自動停止する」設定では、OS のシャットダウンが開始されると、UPS は必ず出力停止します。

UPS の出力停止前にコンピュータの電源を入れると、OS の起動途中または起動後に UPS が出力停止するため、故障の原因となる恐れがあります。

コンピュータを手動で起動する前に、必ず、UPS が出力停止した後であることを確認してください。



#### 参考

UPS が自動停止する前にコンピュータを起動したい場合は、一旦 UPS を再起動（電源スイッチ操作で OFF / ON する）し、出力停止タイマーをリセットしてください。

本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されております。  
本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。

**オムロンソーシアルソリューションズ株式会社**

© OMRON SOCIAL SOLUTIONS Co., Ltd. 2023  
K1M-D-23011A